

令和6年度 東金市立保育所・認定こども園 自己評価 (所・園内研修まとめ)

全所・園共通テーマ

「生きる力を育む」



写真：福岡こども園 「気づき～豊かな自然の中で～」

もくじ

保育理念・方針・めざす子ども像	1
令和6年度 教育及び保育の内容に関する全体的な計画	2
所内研修まとめ（第2保育所） 「個性に寄り添うことでうまれる環境構成と保育者の関わり」	7
所内研修まとめ（第3保育所） 「子どもの心の育ちを考える～子どもたちの想いを実現するために～」	13
園内研修まとめ（豊成こども園） 「やってみたい」をやってみよう～つながりから広がる遊び～	19
園内研修まとめ（福岡こども園） 「園の周辺の楽しい場所を探してみよう！」 ～自然を通して様々な体験を楽しもう～	25
園内研修まとめ（正気こども園） 「伸び伸びと遊ぶ正気っ子～語り合い・見せ合い・学び合い～」	31

各所・園の資料は、概ね次のような構成となっています。

- 表紙
- 所・園のサブテーマ（昨年度の反省・子どもの姿・保育者の願い・仮説・手立て・研修方法等）
- 外部講師による教育・保育の質の向上のための巡回指導を受けての課題等
- 所・園内研修の成果と課題
- 自己評価に関する観点からの評価
 - 【1】保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価
 - 【2】計画に基づく評価
 - 【3】家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価
- 所・園内研修の総まとめ
- 所・園内研修の事例集 ※事例集は別冊とし、非公表としています。

保育理念

乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育・保育の環境を創造する。

教育・保育目標

「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む

方針

- 「生活」と「遊び」を通した学びにより様々な体験を重ね、豊かな感性や創造性、好奇心を育てます。
- 子どもたち一人一人の個性を大切にし、そのよさをさらに高め、子どもたちが自分を伸びやかに発揮できるよう努めます。
- 同年齢、異年齢の友達とのかかわりの中で、お互いを大切に思いやる心を育てます。
- 子どもたちが健康で安全に生活できる環境を整え、丈夫な体づくりのための食育の推進や基本的な生活習慣・態度を身に付けられるよう支援します。
- 子どもたちが健やかに成長していけるよう、家庭や地域との連携を密にし、共通理解を図ります。
- 地域における子育ての支援のために、乳幼児の教育・保育に関する相談に応じ、助言するなどの社会的役割を果たします。
- 一人一人の特別なニーズに応じた適切な支援を行うとともに、集団活動を通して、全体的な発達を促します。
- 学校教育への円滑な接続のための基礎を培います。

めざす子ども像

- *仲良く元気に遊べる子・・・身近な人と十分に関わり、元気に体を動かすことを喜ぶ。
- *思いやりのあるやさしい子・・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。
- *自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちを持ち、試し、やってみる。
- *あきらめないで挑戦する子・・・見通しをもって活動に取り組み、最後までやり通そうとする。

基本理念	乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育・保育の環境を創造する。	子どもの教育及び保育目標	0歳児	一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。			
	教育・保育目標		「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む	1歳児	安心できる保育者との関係の下で、自分でしようとする気持ちが芽生える。		
			めざす子ども像	○仲良く元気に遊べる子・・・身近な人と十分に関わり、元気に体を動かすことを喜ぶ。 ○思いやりのあるやさしい子・・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。 ○自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちを持ち、試し、やってみる。 ○あきらめなで挑戦する子・・・見通しをもって活動に取り組み、最後までやり通そうとする。	2歳児(満3歳児)	基本的な運動機能が発達し、身の回りのことを自分でしようとする。	
				第2保育所の教育・保育目標	『個性に寄り添うことでうまれる環境構成と保育者の関わり』	3歳児	基本的な生活習慣を身に付け、保育者や友達と関わりながら遊ぶ楽しさを知る。
							4歳児
			5歳児	生活や遊びの中で共通の目的を持って友達と協力しながら活動し、達成感や充実感を味わう。			
●幼稚園 : 基本保育時間→9:00~14:00 *預かり保育 14:00~16:30 ●保育所 : 基本保育時間→7:30(8:00)~18:30(16:00) *延長保育時間→7:00~、~19:00 ●認定こども園 : 基本保育時間→幼稚園の利用は幼稚園と、保育所の利用は保育所と同じ。 *2歳児クラスでは、満3歳未満と満3歳以上の子どもが混在する中で一体的に教育及び保育が行われるという観点から、実際の教育及び保育の現場においては月齢差を考慮した関わりと見通しを持って子どもと接する。		行事のねらい	日々の園生活の連続性のなかで、発達等園児の実態に応じて必要なものを行事として行い、行事の運営観点を以下の5項目に分類し実施する。 ①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割 ②親子の触れ合いを促す役割 ③伝統文化を知らせる役割 ④健康と安全を守る役割 ⑤保育を厚くする役割				

特に配慮すべき事項

一人一人を大切に教育・保育	発達の連続性に配慮した教育・保育	異年齢との関わりを大切に教育・保育	子どもたちの健康と安全を守る教育・保育	食育を推進する教育・保育	インクルーシブな教育・保育
子どもの人権に十分配慮し、一人一人のありのままの姿に寄り添い、安心して自分の気持ちを表すことができるよう関わっていく。子どもたちの育ちを認め、自己肯定感を育てていくような関わりをしていく。	個人差があることを十分考慮しながら、一人一人の発達を保障するために、職員が共通理解を図り、年齢にあった環境を整え発達を促していく保育を行う。	生活や遊びの中で“見て学ぶ”経験を大切に、互いに刺激しあう関係性を築いていけるような環境(人的、物的)を整える。	心も身体も共に健康であるよう、様々な経験が出来る環境を整える。安全面においては、遊具等の安全点検や、園外での歩行の仕方、保育士の配置等十分に配慮する。	「食育年間計画」に基づき、栽培や収穫を通し食への関心を高める。たくさん遊び空腹を感じ、よく食べて空腹を満たすという遊びと食事の関係性も大切にします。	どのような個性をもつ子ども皆同じ仲間という認識のもと、保育所全体で育てていくという職員の共通理解をもって関わっていく。また、家庭や専門機関との連携を図る。

教育課程・育ちの過程

							家庭との連携
	年齢	0歳児	1歳児	2歳児(満3歳児)	3歳児	4歳児	5歳児
養護	生命の保持	○安全で清潔な環境を整える。 ○生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 ○気温や湿度に留意しながら薄着の習慣を付け、丈夫な体づくりをしていけるようにする。 ○スキンシップを多く持ち、安心して過ごせるようにする。 ○信頼できる保育者と触れ合い、愛着関係を深め、心地よい生活を送れるようにする。 ○ゆったりと過ごし、食事や睡眠などの生活リズムが整うようにする。 ○喃語や指さすものを理解し、子どもの気持ちに寄り添いながら応答していく。 ○自分でやりたいという気持ちを大切に、援助しながら満足感を感じられるようにする。 ○信頼関係が深まる中で、安心して自分の気持ちが伝えられるようにしていく。	○安全で清潔な環境を整える。 ○運動機能が発達するため、子どもの行動範囲を十分把握し環境の安全に配慮する。 ○一人一人の健康状態や生活リズムを把握し、快適に過ごせるようにする。 ○不安や欲求を受け止め、スキンシップを多く持ち、愛着関係を深め、安心して過ごせるようにする。 ○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。 ○保育者が仲立ちをしながら一緒に遊び、友達との触れ合いを楽しめるようにする。 ○自分でやりたいという気持ちを大切に、意欲的に生活できるようにする。 ○自我の芽生えを受け止めながら、心の動きや成長を知り安定して過ごせるようにする。	○一人一人の健康状態を把握し、快適な生活ができるようにする。 ○基本的な生活習慣の自立に向けて、一人一人の状況に応じた援助をする。 ○一人一人の発達段階を把握し、危険のないよう環境を整え、挑戦する行動を見守っていく。 ○一人一人の気持ちを受け止め、共感し、信頼関係を深める中で、子どもが安心して気持ちを表すことができるようにする。 ○様々な場面で現れる自我の育ちを丁寧を受け止め、見守っていく。 ○保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げ、関わり方を伝えながら一緒に遊ぶ楽しさが味わえるようにする。	○基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。 ○できることが増え、自分でやり通そうとするなど、自分の意志で生活しようとする気持ちを認め、成功体験を積み重ねていけるようにする。	○運動量が増し、活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し、自己肯定感をもち意欲的に活動できるようにする。	○体や病気について関心を持ち、健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 ○一人一人の成長を認め、それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。
		情緒の安定	○初歩的な運動機能が発達する。 ○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。 ○身近な保育者と過ごすことを喜ぶ。 ○保育者の言葉掛けが分かり、自分の気持ちや欲求を片言や身振りで伝えようとする。 ○保育者の声や表情に安心感を覚え、快・不快感を表す。 ○身の回りの環境に興味を持ち、見たり、聞いたり、触れたりする。	健康 ○運動機能が発達し、探索活動を楽しむ。 ○簡単な身の回りのことなどに興味をもつ。 人間関係 ○保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自ら関わろうとする。 環境 ○身の回りの環境に興味や関心を持ち、様々な遊びを楽しむ。 言葉 ○話し掛けややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そうとする。 表現 ○保育者と一緒に模倣遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりする。	○十分に体を動かし、遊具や用具を使った簡単な遊びを楽しむ。 ○簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ○自我が芽生え、友達との関わりの中で簡単なルールがあることを知る。 ○身の回りの様々なものに関わり、好奇心を持つ。 ○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。	○体を使ったいろいろな遊びを楽しむ。 ○保育者を仲立ちとしながら、友達と関わって遊び、みんなと一緒に楽しさを味わう。 ○気の合う友達と遊びを進めていく楽しさを味わう。 ○異年齢児と関わることを楽しみ、遊びを模倣したり、取り入れたりする。 ○身近な自然・素材・空間などを自分なりに見立てて遊ぶ。 ○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。 ○活動を通して、遊びの中のいろいろななまに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。 ○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。	○全身を使って、いろいろな遊びに挑戦する。 ○危険な場や遊び方などを知り、安全に気を付ける。 ○気の合う友達とのつながりを深めながら、遊びを楽しむ。 ○身近な環境の中で関心のあるものや年長児のしている遊びを、自分たちの遊びや生活の中に取り入れていく。 ○いろいろな遊びの中で必要なものを友達と一緒に考えたり、工夫したりして作り、遊びに生かして使う。 ○保育者や気の合う友達の話に興味をもって聞いたり、自分の思っていることを話したりする。 ○友達と一緒に、思ったことや感じたことを、様々な方法で表現する楽しさを味わう。
							小学校への円滑な接続に向けた教育・保育
							地域との連携を大切に教育・保育
							保護者及び地域の子育て家庭への支援
							研修・研究計画
		研究テーマ	「生きる力を育む」				
		『個性に寄り添うことでうまれる環境構成と保育者の関わり』をサブテーマとし、保育者が子ども一人一人に寄り添う保育、環境設定を行う。子どもたちの姿・遊びのエピソードから、環境の再構成や関わりについて意見交換をし所内研修を行う。年度末に5ヶ所の施設で成果を発表する。					
							園の自己評価
		評価方法	巡回指導・所内研修を通して振り返り				
							子ども理解し、一人一人に合った関わりや環境設定に努めた。子ども主体を意識しながら保育を行ったが、外部講師からの「自主性と主体性は違う」という言葉で、どのように子どもたちと関わるかが子ども主体なのかを考える1年間となった。所内研修や職員間の話し合いで、職員が活発に発言し互いの思いに気づくことができたことは、同じ方向を向きより良い保育の展開につながっていくと思う。

基本理念 乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育・保育の環境を創造する。	教育・保育目標 「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む	子どもの教育及び保育目標	0歳児	一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。
			1歳児	安心できる保育者との関係の下で、自分でしようとする気持ちが芽生える。
			2歳児(満3歳児)	基本的な運動機能が発達し、身の回りのことを自分でしようとする。
			3歳児	基本的な生活習慣を身に付け、保育者や友達と関わりながら遊ぶ楽しさを知る。
			4歳児	友達との関わりを深めながら、いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。
めざす子ども像 ○仲良く元気に遊べる子・・・身近な人と十分に関わり、元気に体を動かすことを喜び。 ○思いやりのあるやさしい子・・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。 ○自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちを持ち、試し、やってみる。 ○あきらめないで挑戦する子・・・見通しをもって活動に取り組み、最後までやり通そうとする。	第3保育所の教育・保育目標 豊かな自然の中でのびのびと遊ぶ。	行事のねらい 日々の園生活の連続性のなかで、発達等園児の実態に応じて必要なものを行事として行い、行事の運営観点を以下の5項目に分類し実施する。 ①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割 ②親子の触れ合いを促す役割 ③伝統文化を知らせる役割 ④健康と安全を守る役割 ⑤保育を厚くする役割		
●幼稚園 ：基本保育時間→9：00～14：00 *預かり保育 14:00～16：30 ●保育所 ：基本保育時間→7：30(8：00)～18：30(16:00) *延長保育時間→7:00～、～19:00 ●認定こども園 ：基本保育時間→幼稚園の利用は幼稚園と、保育所の利用は保育所と同じ。 *2歳児クラスでは、満3歳未満と満3歳以上の子どもが混在する中で一体的に教育及び保育が行われるという観点から、実際の教育及び保育の現場においては月齢差を考慮した関わりと見通しを持って子どもと接する。				

特に配慮すべき事項

一人一人を大切に教育・保育 子どもの人権を十分に配慮し、一人一人の子どもが主体的に活動ができるようにしていく。子どもの気持ちに寄り添った保育を行い健全な心身の発達を図っていく。	発達の連続性に配慮した教育・保育 一人一人の発達状態に合った保育を定期的、継続的に把握しながら、年齢に応じた環境を整え、職員が共通理解を図り、保育を行うっていく。	異年齢との関わりを大切に教育・保育 幼児組は、3、4、5歳児クラス縦割り保育を行う中で、異年齢児との生活や遊びを通して他者への思いやりを育むと共に、乳児組、幼児組も関わる機会を多くもち、思いやる気持ちを大切にしていく。	子どもたちの健康と安全を守る教育・保育 全職員が相互に連携し、健やかな生活の確立を進めていく。また、事故防止のため、定期的に安全点検、訓練を全体で行っていく。衛生面には十分配慮し、感染症拡大防止に保育所全体で対応していく。	食育を推進する教育・保育 保育者や友達と一緒に食べることを楽しみにできるようにしていく。また、クッキングや菜園作りを通して、食への興味や関心を高め、感謝して食べようとする気持ちが育つように働きかけていく。	インクルーシブな教育・保育 家庭や関係機関と連携した支援を行うため、障害を職員全体で共通理解し、保育を進めていく。みんなと一緒に共に学び、共に育つことができるようにしていく。
--	---	---	---	--	---

教育課程・育ちの過程

		家庭との連携 保育所だより、連絡帳、クラスや各年齢でのドキュメンテーション等で、保育所での子どもの様子を知らせたり、送迎時に家庭との連絡を密に図ったりしていく。 小学校への円滑な接続に向けた教育・保育 ネットワーク会議や幼保小研修会などの機会の際、小学校教師と意見交換や情報を共有し、保育所と小学校教育との円滑な接続に努める。					
養護	年齢	0歳児 ○安全で清潔な環境を整える。 ○生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 ○気温や湿度に留意しながら薄着の習慣を付け、丈夫な体づくりをしていけるようにする。 ○スキンシップを多く持ち、安心して過ごせるようにする。 ○信頼できる保育者と触れ合い、愛着関係を深め、心地よい生活を送れるようにする。 ○ゆったりと過ごし、食事や睡眠などの生活リズムが整うようにする。 ○喃語や指さすものを理解し、子どもの気持ちに寄り添いながら応答していく。 ○自分でやりたいという気持ちを大切にし、援助しながら満足感を感じられるようにする。 ○信頼関係が深まる中で、安心して自分の気持ちが伝えられるようにしていく。	1歳児 ○安全で清潔な環境を整える。 ○運動機能が発達するため、子どもの行動範囲を十分把握し環境の安全に配慮する。 ○一人一人の健康状態や生活リズムを把握し、快適に過ごせるようにする。 ○不安や欲求を受け止め、スキンシップを多く持ち、愛着関係を深め、安心して過ごせるようにする。 ○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。 ○保育者が仲立ちをしながら一緒に遊び、友達との触れ合いを楽しめるようにする。 ○自分でやりたいという気持ちを大切に、意欲的に生活できるようにする。 ○自我の芽生えを受け止めながら、心の動きや成長を知り安定して過ごせるようにする。	2歳児(満3歳児) ○一人一人の健康状態を把握し、快適な生活ができるようにする。 ○基本的な生活習慣の自立に向けて、一人一人の状況に応じた援助をする。 ○一人一人の発達段階を把握し、危険のないよう環境を整え、挑戦する行動を見守っていく。 ○一人一人の気持ちを受け止め、共感し、信頼関係を深める中で、子どもが安心して気持ちを表すことができるようにする。 ○様々な場面で現れる自我の育ちを丁寧に受け止め、見守っていく。 ○保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げ、関わり方を伝えながら一緒に遊ぶ楽しさが味わえるようにする。	3歳児 ○基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。 ○できることが増え、自分でやり通そうとするなど、自分の意志で生活しようとする気持ちを認め、成功体験を積み重ねていけるようにする。 ○体を使ったいろいろな遊びを楽しむ。 ○保育者を仲立ちとしながら、友達と関わって遊び、みんなと一緒に楽しさを味わう。 ○気の合う友達と遊びを進めていく楽しさを味わう。 ○異年齢児と関わることを楽しみ、遊びを模倣したり、取り入れたりする。 ○身近な自然・素材・空間などを自分なりに見立てて遊ぶ。 ○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。 ○活動を通して、遊びの中のいろいろななままりに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。 ○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。	4歳児 ○運動量が増し、活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し、自己肯定感をもち意欲的に活動できるようにする。 ○危険な場や遊び方などを知り、安全に気を付ける。 ○気の合う友達とのつながりを深めながら、遊びを楽しむ。 ○身近な環境の中で関心のあるものや年長児のしている遊びを、自分たちの遊びや生活の中に取り入れていく。 ○いろいろな遊びの中で必要なものを友達と一緒に考えたり、工夫したりしてつくり、遊びに生かして使う。 ○保育者や気の合う友達の話に興味をもって聞いたり、自分の思っていることを話したりする。 ○友達と一緒に、思ったことや感じたことを、様々な方法で表現する楽しさを味わう。	5歳児 ○体や病気について関心を持ち、健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 ○一人一人の成長を認め、それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。 ○友達と積極的に体を動かす活動に取り組む、みんなで一緒に遊ぶ充実感を味わう。 ○危険な場や遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動しようとする。 ○生活や遊びに見通しをもって活動する。 ○友達と共通の目的に向かって活動することの楽しさを味わう。 ○身近な環境に好奇心や探究心をもって関わり、いろいろな遊びや生活に取り入れていく。 ○友達とイメージを共有しながら、自分なりの動きや言葉などで表現して遊ぶ楽しさを味わう。
	生命の保持	健康 ○初歩的な運動機能が発達する。 ○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。 ○身近な保育者と過ごすことを喜び、 ○保育者の言葉掛けが分かり、自分の気持ちや欲求を片言や身振りで伝えようとする。 ○保育者の声や表情に安心感を覚え、快・不快感を表す。 ○身の回りの環境に興味を持ち、見たり、聞いたり、触れたりする。	人間関係 ○保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自ら関わろうとする。 ○身の回りの環境に興味や関心をもち、様々な遊びを楽しむ。 ○話し掛けややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そうとする。 ○保育者と一緒に模倣遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりする。	環境 ○身の回りの環境に興味や関心をもち、様々な遊びを楽しむ。 ○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。	言葉 ○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。	表現 ○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。	
教育及び保育	健やかに伸び伸びと育つ	健康 ○初歩的な運動機能が発達する。 ○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。	人間関係 ○保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自ら関わろうとする。	環境 ○身の回りの環境に興味や関心をもち、様々な遊びを楽しむ。 ○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。	言葉 ○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。	表現 ○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。	
	身近な人と気持ちが通じ合う	健康 ○初歩的な運動機能が発達する。 ○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。	人間関係 ○保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自ら関わろうとする。	環境 ○身の回りの環境に興味や関心をもち、様々な遊びを楽しむ。 ○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。	言葉 ○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。	表現 ○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。	
身近なものに関わり感性が育つ	健康 ○初歩的な運動機能が発達する。 ○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。	人間関係 ○保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自ら関わろうとする。	環境 ○身の回りの環境に興味や関心をもち、様々な遊びを楽しむ。 ○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。	言葉 ○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。	表現 ○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。	表現 ○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。	
		園の自己評価					
		評価方法 巡回指導・所内研修の振り返り					
		子どもの「やってみたい」という思いを受け止め、実現できる環境づくりをおこなった。巡回指導や所内研修において保育を振り返り、話し合う中で共通理解も深まり、異年齢交流も盛んになった。遊びが充実することで、子どもたちの心の育ちにつながった。					

基本理念	乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育・保育の環境を創造する。	子どもの教育及び保育目標	0歳児	一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。
教育・保育目標	「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む		1歳児	安心できる保育者との関係の下で、自分でしようとする気持ちが芽生える。
めざす子ども像	○仲良く元気に遊べる子・・・身近な人と十分に関わり、元気に体を動かすことを喜ぶ。 ○思いやりのあるやさしい子・・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。 ○自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちを持ち、試し、やってみる。 ○あきらめなくて挑戦する子・・・見通しをもって活動に取り組み、最後までやり通そうとする。		2歳児（満3歳児）	基本的な運動機能が発達し、身の回りのことを自分でしようとする。
豊成こども園の教育・保育目標	「やってみよう」をやってみよう ～つながりから広がる遊び～		3歳児	基本的な生活習慣を身に付け、保育教諭や友達と関わりながら遊ぶ楽しさを知る。
			4歳児	友達との関わりを深めながら、いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。
		行事のねらい	日々の園生活の連続性のなかで、発達等園児の実態に応じて必要なものを行事として行い、行事の運営観点を以下の5項目に分類し実施する。 ①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割 ②親子の触れ合いを促す役割 ③伝統文化を知らせる役割 ④健康と安全を守る役割 ⑤保育を厚くする役割	5歳児 生活や遊びの中で共通の目的を持って友達と協力しながら活動し、達成感や充実感を味わう。

特に配慮すべき事項

一人一人を大切に教育・保育 個々の家庭環境の違いを踏まえ、集団生活の中で、個性を認め、一人一人に寄り添い、友達、保育者、地域の人々など、様々な人との関わりを大切にしながら、子どもが意欲をもって生活や活動ができるようにしていく。	発達の連続性に配慮した教育・保育 一人一人の発達に合った活動や生活ができるよう計画を立てて働きかけを行い、子どもが自信をもって行動できるように個々の発達を保障していく。	異年齢との関わりを大切に教育・保育 遊びの中で異年齢児との関わりをもち、思いやりやさしさの心、いたわりの心をもてるよう、人的環境・物的環境を整える。	子どもたちの健康と安全を守る教育・保育 安全、安心の環境の下、職員間の連携を密にとりながら、様々なことに自分で気づき行動できる子どもを育てていく。事故防止のため、全体で定期的に安全点検や訓練を行っていく。また散歩など園外に出る時には交通ルールを知らせ安全に歩けるようにする。	食育を推進する教育・保育 0歳児から5歳児まで各年齢で食への興味・関心を高め、幼児組では栽培・収穫・調理などを通して、食べることの楽しさを体験し、「食べたい」という意欲を育てていく。	インクルーシブな教育・保育 すべての子どもにとって充実して楽しく、優しい教育・保育を行う。その中で支援が必要な子どもの個別支援計画を作成する。
---	--	--	---	---	---

教育課程・育ちの過程

							家庭との連携 0、1、2歳児では、連絡帳でのやりとりや登降園時に保護者と情報を共有するなど密に連絡をとりあい保護者との信頼関係を築いていく。クラスごとにこども園での子どもの様子を可視化（ポートフォリオ・ドキュメンテーション）し育ちや学びの様子を発信する。	
	年齢	0歳児	1歳児	2歳児（満3歳児）	3歳児	4歳児	5歳児	
養護	生命の保持	○安全で清潔な環境を整える。 ○生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 ○気温や湿度に留意しながら薄着の習慣を付け、丈夫な体づくりをしていけるようにする。 ○スキンシップを多く持ち、安心して過ごせるようにする。 ○信頼できる保育者と触れ合い、愛着関係を深め、心地よい生活を送れるようにする。 ○ゆったりと過ごし、食事や睡眠などの生活リズムが整うようにする。 ○喃語や指さすものを理解し、子どもの気持ちに寄り添いながら	○安全で清潔な環境を整える。 ○運動機能が発達するため、子どもの行動範囲を十分に把握し環境の安全に配慮する。 ○一人一人の健康状態や生活リズムを把握し、快適に過ごせるようにする。 ○不安や欲求を受け止め、スキンシップを多く持ち、愛着関係を深め、安心して過ごせるようにする。 ○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。 ○保育者が仲立ちをしながら一緒に遊び、友達との触れ合いを楽しめるようにする。 ○自分でやりたいという気持ちを大切に、意欲的に生活できるようにする。 ○自我の芽生えを受け止めながら、心の動きや成長を知り安定して過ごせるようにする。	○一人一人の健康状態を把握し、快適な生活ができるようにする。 ○基本的生活習慣の自立に向けて、一人一人の状況に応じた援助をする。 ○一人一人の発達段階を把握し、危険のないよう環境を整え、挑戦する行動を見守っていく。 ○一人一人の気持ちを受け止め、共感し、信頼関係を深める中で、子どもが安心して気持ちを表すことができるようにする。 ○様々な場面で現れる自我の育ちを丁寧に受け止め、見守っていく。 ○保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げ、関わり方を伝えながら一緒に遊ぶ楽しさが味わえるようにする。	○基本的生活習慣を身に付けられるように援助する。 ○できることが増え、自分でやり通そうとするなど、自分の意志で生活しようとする気持ちを認め、成功体験を積み重ねていけるようにする。 ○体を使ったいろいろな遊びを楽しむ。 ○保育教諭を仲立ちとしながら、友達と関わって遊び、みんなと一緒に楽しさを味わう。 ○気の合う友達と遊びを進めていく楽しさを味わう。 ○異年齢児と関わることを楽しみ、遊びを模倣したり、取り入れたりする。 ○身近な自然・素材・空間などを自分なりに見立てて遊ぶ。 ○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。 ○活動を通して、遊びの中のいろいろななまに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。 ○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。	○運動量が増し、活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し、自己肯定感をもち意欲的に活動できるようにする。 ○全身を使って、いろいろな遊びに挑戦する。 ○危険な場や遊び方などを知り、安全に気を付ける。 ○気の合う友達とのつながりを深めながら、遊びを楽しむ。 ○身近な環境の中で関心のあるものや年長児のしている遊びを、自分たちの遊びや生活の中に取り入れていく。 ○いろいろな遊びの中で必要なものを友達と一緒に考えたり、工夫したりして作り、遊びに生かして使う。 ○保育教諭や気の合う友達の話に興味をもって聞いたり、自分の思っていることを話したりする。 ○友達と一緒に、思ったことや感じたことを、様々な方法	○体や病気について関心を持ち、健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 ○一人一人の成長を認め、それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。 ○友達と積極的に体を動かす活動に取り組む、みんなと一緒に遊ぶ充実感を味わう。 ○危険な場や遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動しようとする。 ○生活や遊びに見通しをもって活動する。 ○友達と共通の目的に向かって活動することの楽しさを味わう。 ○身近な環境に好奇心や探究心をもって関わり、いろいろな遊びや生活に取り入れていく。 ○自分の考えを相手に伝えたり、友達の良さを認めたり、その考えを取り入れたりしながら遊びを進めていく。 ○友達とイメージを共有しながら、自分なりの動きや言葉などで表現して遊ぶ楽しさを味わう。	小学校への円滑な接続に向けた教育・保育 小学校との連携を図り、市内共通アプローチカリキュラムを活用し、卒園までに育てたい10の姿を共有して円滑に小学校生活が送れるようにする。
	情緒の安定	○初歩的な運動機能が発達する。 ○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。 ○身近な保育者と過ごすことを喜ぶ。 ○保育者の言葉掛けが分かり、自分の気持ちや欲求を片言や身振りで伝えようとする。 ○保育者の声や表情に安心感を覚え、快・不快感を表す。	健康 ○運動機能が発達し、探索活動を楽しむ。 人間関係 ○簡単な身の回りのことなどに興味をもつ。 ○保育者や友達に関心をもち、真似をしたりして自ら関わろうとする。 環境 ○身の回りの環境に興味や関心をもち、様々な遊びを楽しむ。 言葉 ○話し掛けややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そうと	地域との連携を大切に教育・保育 地域の環境保全会と連携し、広大なチューリップ畑の球根とり、球根植えを通して地域の方とふれあい、地域の方に支えられていることを知る。こども園つうしんを豊成コミュニティーセンターに掲示し、こども園の可視化につなげる。	保護者及び地域の子育て家庭への支援 毎週火曜日に園庭開放を行い未就園児とその保護者が集える場を提供する。遊びの発信や相談を行うことで、保護者支援をしていく。	研究テーマ 生きる力を育む 「やってみよう」をやってみよう～つながりから広がる遊び～をサブテーマとし、週指導計画会議の際、子どもの様子や遊びの経過などを伝え合いながら共有し、環境の見直しや活動内容などについて話し合っていく。職員の共通理解、共通認識と資質向上を図る。	園の自己評価 評価方法 石井先生巡回指導・園内研修 自園のテーマに沿って、園内研修や週指導計画会議の話し合いの場で、保育への取り組み、振り返り、反省、改善すべき点を職員間で話し合い、共通理解を図った。外部講師より、現状の保育を継続してほしいと話があり、子ども主体の保育について今後も取り組んでいこうと思う。	

基本理念	乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育・保育の環境を創造する。	子どもの教育及び保育目標	0歳児	一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。
教育・保育目標	「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む		1歳児	安心できる保育者との関係の下で、自分でしようとする気持ちが芽生える。
めざす子ども像	○仲良く元気に遊べる子・・・身近な人と十分に関わり、元気に体を動かすことを喜び。 ○思いやりのあるやさしい子・・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。 ○自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちを持ち、やってみる。 ○あきらめないで挑戦する子・・・見通しをもって活動に取り組み、最後までやり通そうとする。		2歳児(満3歳児)	基本的な運動機能が発達し、身の回りのことを自分でしようとする。
園の教育・保育目標	一人一人が輝くための保育を目指して～職員間の共通理解を深める～		3歳児	基本的な生活習慣を身に付け、保育者や友達と関わりながら遊ぶ楽しさを知る。
			4歳児	友達との関わりを深めながら、いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。
		5歳児	生活や遊びの中で共通の目的を持って友達と協力しながら活動し、達成感や充実感を味わう。	
●1号認定：基本保育時間→9：00～14：00 *預かり保育 14:00～16：30 ●2・3号認定：基本保育時間→7：30(8：00)～18：30(16:00) *延長保育時間→7:00～、～19:00 ●認定こども園：基本保育時間→幼稚園的利用は幼稚園と、保育所利用は保育所と同じ。 *2歳児クラスでは、満3歳未満と満3歳以上の子どもが混在する中で一体的に教育及び保育が行われるという観点から、実際の教育及び保育の現場においては月齢差を考慮した関わりと見通しを持って子どもと接する。		行事のねらい	日々の園生活の連続性のなかで、発達等園児の実態に応じて必要なものを行事として行い、行事の運営観点を以下の5項目に分類し実施する。 ①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割 ②親子の触れ合いを促す役割 ③伝統文化を知らせる役割 ④健康と安全を守る役割 ⑤保育を厚くする役割	

特に配慮すべき事項

一人一人を大切に教育・保育	発達の連続性に配慮した教育・保育	異年齢との関わりを大切に教育・保育	子どもたちの健康と安全を守る教育・保育	食育を推進する教育・保育	インクルーシブな教育・保育
子どもの最善の利益を守り、心身ともに一人一人の健やかな育ちや豊かな心、逞しく生きる力を育てていく。子どもの思いや気持ちに寄り添い、友達、保育者、地域の人々など、様々な人との関わりを大切にしていく。	年齢に即した環境作りを心掛けながら、職員が共通理解を図りながら、発達の見通しをもって子どもに関わり、一人一人の発達を保障していく。	日々の保育の中で様々な年齢の子ども達が自然に交流できる場を作り、他年齢の存在を意識し刺激を受けながら、他者への思いやりの気持ちを育むと共に、お互いに成長していくことを大切にします。	安全、安心を第一とし、職員同士の連携を密にとりながら環境を整え、様々なことに自分で気づき行動できる子どもを育てていく。また、事故防止のため、全体で定期的に安全点検や訓練を行っていく。	野菜の栽培やクッキングなどを通して、食べることの楽しさや大切さを実感できる豊かな食の体験を積み重ね、「食べたい」という意欲を育てていく。	家庭や専門機関との連携を図りながら、保育者の工夫、配慮によって、園児が共に認め合える関係を作り、安心して周囲の環境と関わりながら発達していけるようにする。

教育課程・育ちの過程

		年齢	0歳児	1歳児	2歳児(満3歳児)	3歳児	4歳児	5歳児	家庭との連携
養護	生命の保持		○安全で清潔な環境を整える。 ○生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 ○気温や湿度に留意しながら薄着の習慣を付け、丈夫な体づくりをしていくようにする。 ○スキンシップを多く持ち、安心して過ごせるようにする。 ○信頼できる保育者と触れ合い、愛着関係を深め、心地よい生活を送れるようにする。 ○ゆったりと過ごし、食事や睡眠などの生活リズムが整うようにする。	○安全で清潔な環境を整える。 ○運動機能が発達するため、子どもの行動範囲を十分に把握し環境の安全に配慮する。 ○一人一人の健康状態や生活リズムを把握し、快適に過ごせるようにする。 ○不安や欲求を受け止め、スキンシップを多く持ち、愛着関係を深め、安心して過ごせるようにする。 ○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。 ○保育者が仲立ちをしながら一緒に遊び、友達との触れ合いを楽しめるようにする。	○一人一人の健康状態を把握し、快適な生活ができるようにする。 ○基本的生活習慣の自立に向けて、一人一人の状況に応じた援助をする。 ○一人一人の発達段階を把握し、危険のないよう環境を整え、挑戦する行動を見守っていく。 ○一人一人の気持ちを受け止め、共感し、信頼関係を深める中で、子どもが安心して気持ちを表すことができるようにする。 ○様々な場面で現れる自我の育ちを丁寧に受け止め、見守っていく。 ○保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げ、関わり方を伝えながら一緒に遊ぶ楽しさが味わえるようにする。	○基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。 ○できることが増え、自分でやり通そうとするなど、自分の意志で生活しようとする気持ちを認め、成功体験を積み重ねていけるようにする。 ○体を使ったいろいろな遊びを楽しむ。	○運動量が増し、活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し、自己肯定感をもち意欲的に活動できるようにする。	○体や病気について関心を持ち、健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 ○一人一人の成長を認め、それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。	保護者との日々の会話や連絡帳、園での様子を伝える掲示板を通して、家庭とこども園、それぞれの子どもの生活の様子を伝え合い子ども達の望ましい発達を共有する。
	情緒の安定		○ゆったりと過ごし、食事や睡眠などの生活リズムが整うようにする。 ○喃語や指さすものを理解し、子どもの気持ちに寄り添いながら応答していく。 ○自分でやりたいという気持ちを大切に、援助しながら満足感を感じられるようにする。 ○信頼関係が深まる中で、安心して自分の気持ちが伝えられるようにしていく。	○自分でやりたいという気持ちを大切に、意欲的に生活できるようにする。 ○自我の芽生えを受け止めながら、心の動きや成長を知り安定して過ごせるようにする。	○十分に体を動かし、遊具や用具を使った簡単な遊びを楽しむ。 ○簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ○自我が芽生え、友達との関わりの中で簡単なルールがあることを知る。 ○身の回りの様々なものに関わり、好奇心を持つ。 ○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。	○体の使ったいろいろな遊びを楽しむ。 ○保育者を仲立ちとしながら、友達と関わって遊び、みんなと一緒に楽しさを味わう。 ○気の合う友達と遊びを進めていく楽しさを味わう。 ○異年齢児と関わることを楽しみ、遊びを模倣したり、取り入れたりする。	○危険な場や遊び方などを知り、安全に気を付ける。 ○気の合う友達とのつながりを深めながら、遊びを楽しむ。 ○身近な環境の中で関心のあるものや年長児のしている遊びを、自分たちの遊びや生活の中に取り入れていく。	○友達と積極的に体を動かす活動に取り組み、みんなで一緒に遊ぶ充実感を味わう。 ○危険な場や遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動しようとする。 ○生活や遊びに見通しをもって活動する。 ○友達と共通の目的に向かって活動することの楽しさを味わう。 ○身近な環境に好奇心や探究心をもって関わり、いろいろな遊びや生活に取り入れていく。	小学校への円滑な接続に向けた教育・保育 市内共通アプローチカリキュラムを活用し、小学校と連携し、小学校生活に安心感と期待感が感じられるような学びの接続を図る。
教育及び保育	健やかに伸び伸びと育つ		○初歩的な運動機能が発達する。 ○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。	健康 ○運動機能が発達し、探索活動を楽しむ。		○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。	○いろいろな遊びの中で必要なものを友達と一緒に考えたり、工夫したりしてつくり、遊びに生かして使う。	○生活や遊びに見通しをもって活動する。	地域との連携を大切に教育・保育 行事への参加や招待を通して地域の人々とふれあい、たくさんの温かい見守りの中で育つことを大切にする。 保護者及び地域の子育て家庭への支援 子育てに関する情報交換の場や交流の機会を設ける(月の園庭開放、電話相談)とともに、相談・支援を行うことで、子どもと保護者の育ちを支援する。 研修・研究計画 研究テーマ 生きる力を育む 「園の周辺楽しい場所を探してみよう!～自然を通して様々な体験を楽しもう～」をサブテーマとし、月1回、週指導計画会議の際、子どもの様子や遊びの様子など伝え合いながら、情報を各クラスに持ち寄り職員の共通理解を深めていく。 園の自己評価 評価方法 巡回指導・園内研修 園内研修等で環境の見直しや一人一人に応じた援助を話し合い、共通理解を深め、実践・改善したことで、子ども達が安心・安全に園生活を送ることができた。園外の活動では、安全面の配慮・自然との関わりを大事に計画し、実践した。散歩を積み重ねると、散歩への意欲が増し、体力もつき、自然の中の遊びの充実、五感で感じる豊かな感情体験をすることができた。今後も自園ならではの活動を探っていきたいと思う。
	身近な人と気持ちが通じ合う		○身近な保育者と過ごすことを喜び。 ○保育者の言葉掛けが分かり、自分の気持ちや欲求を片言や身振りや表情で伝えようとする。	人間関係 ○保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自ら関わろうとする。		○活動を通して、遊びの中のいろいろななまじりに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。	○保育者や気の合う友達の話に興味をもって聞いたり、自分の思っていることを話したりする。	○友達と共通の目的に向かって活動することの楽しさを味わう。	
	身近なものと関わり感性が育つ		○身の回りの環境に興味を持ち、見たり、聞いたり、触れたりする。	環境 ○身の回りの環境に興味や関心を持ち、様々な遊びを楽しむ。		○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。	○友達と一緒に、思ったことや感じたことを、様々な方法で表現する楽しさを味わう。	○友達とイメージを共有しながら、自分なりの動きや言葉などで表現して遊ぶ楽しさを味わう。	
			○保育者の声や表情に安心感を覚え、快・不快感を表す。	言葉 ○話し掛けややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そうとする。					

基本理念	乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育・保育の環境を創造する。	子どもの教育及び保育目標	0歳児	一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。
教育・保育目標	「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む		1歳児	安心できる保育者との関係の下で、自分でしようとする気持ちが芽生える。
めざす子ども像	○仲良く元気に遊べる子・・・身近な人と十分に関わり、元気に体を動かすことを喜ぶ。 ○思いやりのあるやさしい子・・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。 ○自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちを持ち、試し、やってみる。 ○あきらめなで挑戦する子・・・見通しをもって活動に取り組み、最後までやり通そうとする。		2歳児(満3歳児)	基本的な運動機能が発達し、身の回りのことを自分でしようとする。
正気幼稚園の教育目標	伸び伸びと遊ぶ正気っ子 ～語り合い・見せ合い・学び合い～		3歳児	基本的な生活習慣を身に付け、保育者や友達と関わりながら遊ぶ楽しさを知る。
			4歳児	友達との関わりを深めながら、いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。
		5歳児	生活や遊びの中で共通の目的を持って友達と協力しながら活動し、達成感や充実感を味わう。	
<ul style="list-style-type: none"> ●幼稚園：基本保育時間→9：00～14：00 *預かり保育 14:00～16：00 ●保育所：基本保育時間→7：30(8：00)～18：30(16:00) *延長保育時間→7:00～、～19:00 ●認定こども園：基本保育時間→幼稚園の利用は幼稚園と、保育所の利用は保育所と同じ。 *2歳児クラスでは、満3歳未満と満3歳以上の子どもが混在する中で一体的に教育及び保育が行われるという観点から、実際の教育及び保育の現場においては月齢差を考慮した関わりと見通しを持って子どもと接する。 		行事のねらい	日々の園生活の連続性のなかで、発達等園児の実態に応じて必要なものを行事として行い、行事の運営観点を以下の5項目に分類し実施する。 ①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割 ②親子の触れ合いを促す役割 ③伝統文化を知らせる役割 ④健康と安全を守る役割 ⑤保育を厚くする役割	

特に配慮すべき事項

一人一人を大切に教育・保育	発達の連続性に配慮した教育・保育	異年齢との関わりを大切に教育・保育	子どもたちの健康と安全を守る教育・保育	食育を推進する教育・保育	インクルーシブな教育・保育
<ul style="list-style-type: none"> ・全職員で園児の実態把握に努め、幼児理解をし信頼関係を築いていく。 ・保育教諭自身が柔軟な視点や思考を心がけ、園児の発達を促した適切な環境構成を行い遊びをとおして学びの芽を養う。 ・自他の違いに気付き、互いに認め合い、一人一人が大切な存在だと感じる心を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年において「幼児教育において育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識しながら、指導計画を立てていく。 ・発達課題を踏まえた目標設定、実践、評価、改善(PCDAサイクル)を積み重ねていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢が小さな学年への世話、活動への招待などの思いやりの気持ち、年長児への憧れの気持ちを持つなど、心の育ちに目を向け、計画的にかかわりを深める場を設定していく。 ・他学年の保育内容を担当学年にどのように活かしていくのか、計画立案時に具体的な協議をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全計画を基に全職員で共通理解を図るとともに、月1回以上の避難訓練を実施し、緊急時に備える。また、実施後の反省をその後の訓練やマニュアルの見直しに活かしていく。 ・全職員が日々の生活の中で安全に対する意識を持ち、繰り返し指導にあたる。また、子ども自身にも状況に応じた危険回避能力が身に付くよう指導を重ねる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食を通じて、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。 ・栽培活動を通して、食に関する意識を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を要する園児について、必要な援助を探り、全職員で同じ対応ができるようにする。 ・関係機関との連携のもと、指導方法を学ぶ。

教育課程・育ちの過程

		年齢	0歳児	1歳児	2歳児(満3歳児)	3歳児	4歳児	5歳児	家庭との連携
養護	生命の保持		<ul style="list-style-type: none"> ○安全で清潔な環境を整える。 ○生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 ○気温や湿度に留意しながら薄着の習慣を付け、丈夫な体づくりをしていけるようにする。 ○スキンシップを多く持ち、安心して過ごせるようにする。 ○信頼できる保育者と触れ合い、愛着関係を深め、心地よい生活を送れるようにする。 ○ゆったりと過ごし、食事や睡眠などの生活リズムが整うようにする。 ○喃語や指さすものを理解し、子どもの気持ちに寄り添いながら応答していく。 ○自分でやりたいという気持ちを大切に、援助しながら満足感を感じられるようにする。 ○信頼関係が深まる中で、安心して自分の気持ちが伝えられるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○安全で清潔な環境を整える。 ○運動機能が発達するため、子どもの行動範囲を十分に把握し環境の安全に配慮する。 ○一人一人の健康状態や生活リズムを把握し、快適に過ごせるようにする。 ○不安や欲求を受け止め、スキンシップを多く持ち、愛着関係を深め、安心して過ごせるようにする。 ○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。 ○保育者が仲立ちをしながら一緒に遊び、友達との触れ合いを楽しめるようにする。 ○自分でやりたいという気持ちを大切に、意欲的に生活できるようにする。 ○自我の芽生えを受け止めながら、心の動きや成長を知り安定して過ごせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の健康状態を把握し、快適な生活ができるようにする。 ○基本的な生活習慣の自立に向けて、一人一人の状況に応じた援助をする。 ○一人一人の発達段階を把握し、危険のないよう環境を整え、挑戦する行動を見守っていく。 ○一人一人の気持ちを受け止め、共感し、信頼関係を深める中で、子どもが安心して気持ちを表すことができるようにする。 ○様々な場面で現れる自我の育ちを丁寧を受け止め、見守っていく。 ○保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げ、関わり方を伝えながら一緒に遊ぶ楽しさが味わえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。 ○できることが増え、自分でやり通そうとするなど、自分の意志で生活しようとする気持ちを認め、成功体験を積み重ねていけるようにする。 ○体を使ったいろいろな遊びを楽しむ。 ○保育者を仲立ちとしながら、友達と関わって遊び、みんなと一緒に楽しさを味わう。 ○気の合う友達と遊びを進めていく楽しさを味わう。 ○異年齢児と関わることを楽しみ、遊びを模倣したり、取り入れたりする。 ○身近な自然・素材・空間などを自分なりに見立てて遊ぶ。 ○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。 ○活動を通して、遊びの中のいろいろななままりに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。 ○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動量が増し、活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し、自己肯定感をもち意欲的に活動できるようにする。 ○全身を使って、いろいろな遊びに挑戦する。 ○危険な場や遊び方などを知り、安全に気を付ける。 ○気の合う友達とのつながりを深めながら、遊びを楽しむ。 ○身近な環境の中で関心のあるものや年長児のしている遊びを、自分たちの遊びや生活の中に取り入れていく。 ○いろいろな遊びの中で必要なものを友達と一緒に考えたり、工夫したりしてつくり、遊びに生かして使う。 ○保育者や気の合う友達の話に興味をもって聞いたり、自分の思っていることを話したりする。 ○友達と一緒に、思ったことや感じたことを、様々な方法で表現する楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体や病気について関心を持ち、健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 ○一人一人の成長を認め、それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。 ○友達と積極的に体を動かす活動に取り組み、みんなと一緒に遊ぶ充実感を味わう。 ○危険な場や遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動しようとする。 ○生活や遊びに見通しをもって活動する。 ○友達と共通の目的に向かって活動することの楽しさを味わう。 ○身近な環境に好奇心や探究心をもって関わり、いろいろな遊びや生活に取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が安心して相談できる雰囲気作りを心掛け、子どもの育ちを一緒に考え家庭と連携した保育の充実を努める。 ・教育アンケートの結果を踏まえ、保育や園経営の改善に努める。
	情緒の安定		<ul style="list-style-type: none"> ○初歩的な運動機能が発達する。 ○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。 ○身近な保育者と過ごすことを喜ぶ。 ○保育者の言葉掛けが分かり、自分の気持ちや欲求を片言や身振りで伝えようとする。 ○保育者の声や表情に安心感を覚え、快・不快感を表す。 ○身の回りの環境に興味を持ち、見たり、聞いたり、触れたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動機能が発達し、探索活動を楽しむ。 ○簡単な身の回りのことなどに興味をもつ。 ○保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自ら関わろうとする。 ○身の回りの環境に興味や関心を持ち、様々な遊びを楽しむ。 ○話し掛けややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そうとする。 ○保育者と一緒に模倣遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ○自我が芽生え、友達との関わりの中で簡単なルールがあることを知る。 ○身の回りの様々なものに関わり、好奇心を持つ。 ○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。 ○活動を通して、遊びの中のいろいろななままりに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。 ○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全身を使って、いろいろな遊びに挑戦する。 ○危険な場や遊び方などを知り、安全に気を付ける。 ○気の合う友達とのつながりを深めながら、遊びを楽しむ。 ○身近な環境の中で関心のあるものや年長児のしている遊びを、自分たちの遊びや生活の中に取り入れていく。 ○いろいろな遊びの中で必要なものを友達と一緒に考えたり、工夫したりしてつくり、遊びに生かして使う。 ○保育者や気の合う友達の話に興味をもって聞いたり、自分の思っていることを話したりする。 ○友達と一緒に、思ったことや感じたことを、様々な方法で表現する楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活や遊びに見通しをもって活動する。 ○友達と共通の目的に向かって活動することの楽しさを味わう。 ○身近な環境に好奇心や探究心をもって関わり、いろいろな遊びや生活に取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「幼児教育において育みたい資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえながら、小学校以降の生活や学習の基礎を培い、小学校教育に滑らかにつないでいく。 ・交流会を通じ、小学校を身近に感じる機会を作る。 ・保幼小連絡会議等にて情報交換に努める。
教育及び保育	健やかに伸び伸びと育つ								地域との連携を大切に教育・保育
	身近な人と気持ちが通じ合う								<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携や交流を通じ、園生活を豊かにすると共に、地域と共に子育てに取り組む体制の確立に努める。
	身近なものに関わり感性が育つ								<ul style="list-style-type: none"> ・地域における子育て支援のためのセンター的な役割を果たす。(園庭開放にこころルーム)
									保護者及び地域の子育て家庭への支援
									<ul style="list-style-type: none"> ・地域における子育て支援のためのセンター的な役割を果たす。(園庭開放にこころルーム)
									研究テーマ 生きる力を備えた幼児の育成
									園内研究サブテーマ 「伸び伸びと遊ぶ正気っ子～語り合い・見せ合い・学び合い～」のもと、正気こども園転換1年目の保育教諭間の共通理解を図り研究を進めていく。
									園の自己評価
									評価方法 園内研究を通して話し合い・振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園からこども園へ転換され、日々の生活の仕方から声を掛け合い、進めてきた。園内研究のテーマに添い、職員会議、週指導計画会議、園内研修の場で、一人一人の職員が思いを出し合い、実践、振り返り、改善を重ね、共通理解を図ってきた。行事後の保護者アンケートでは、子どもの成長が見ることができたと評価していただいている。今後も子どもたちの健やかな成長のために、研究を重ねていきたいと思う。

所内研修まとめ

市立保育所・認定こども園共通テーマ 「生きる力を育む」

第2保育所 サブテーマ

個性に寄り添うことでうまれる 環境構成と保育者の関わり



東金市立第2保育所

市内保育所・こども園共通テーマ
「生きる力を育む」

昨年の反省・課題点

◎多種多様な個性をもった子どもたち一人一人の思いに寄り添い、保育していく中で、自信や「やってみよう」という意欲へとつなげていくことを目指していたが、一人一人に寄り添っていくための人員の配置、職員間の対話と連携の取り方、時間の有効活用、柔軟な考え方と臨機応変な対応の難しさを感じた。また、「やってみよう」という気持ちを引き出し、行動を起こすきっかけを作る一人一人に合った働きかけの難しさがあった。

＜子どもの姿＞

- 自分の思いをうまく言葉で伝えられず、言い争いをしたり衝突したりすることがある。
- 基本的な生活習慣が身につけていないため、個別対応が必要な子がいる。
- 興味をもって遊びを楽しんではいないものの継続して遊ぶのが難しい。

＜保育者の願い＞

- 自分の思いを言葉にして友達と意見を出し合い、協力し合って遊べるようになってほしい。
- 身の回りのことを自分でできるようになってほしい
- 自分のやりたい遊びを見つけて友達と関わりながら夢中になって遊べるようになってほしい。



サブテーマ
『個性に寄り添うことでうまれる環境構成と保育者の関わり』

【仮説】

- 子どもの興味関心を探り、つぶやき・子どもの声を拾いながら遊びの環境を整えていくことで子どもたち自ら「やってみよう」「やってみよう」と取り組めるようになっていくのではないだろうか。
- 園全体で子どもの姿や対応の仕方を共通理解していくことで自己肯定感が高まり、周り（友達の姿など）に目を向けられるようになり、様々なことへの意欲へとつながっていくのではないだろうか。

【研究の手立て】

- 子どものつぶやきを見逃さずに子どもの姿をよく観察し、その子なりの楽しみ方・過ごし方を尊重し安心できる環境作りをしていく。
- 園全体で気持ちに寄り添った保育をしていく中で小さなできた（成功体験）を積み重ね、自信や「やってみよう」という意欲へと繋げていく。
- どんな遊びをしているかをホワイトボードに書き出し、盛り上がるためにはどんな環境が必要なのか話し合っていく。

【研究方法】

- 少人数のグループに分かれ、子どもの姿・遊びから保育者の心が動いた場面の写真やエピソードをもとに意見交換や共通理解を図り環境の再構成をしていく。
- 巡回指導で助言を受け、反省・改善点を話し合い見直していく。

《石井先生の巡回指導を受けて》

◎1回目（7月）

〈幼児〉

- ・自主性と主体性の違いの理解。子どもが話し合って何かを決めるのは主体性の第一歩である。
- ・年長児を上手に取り込み遊びを発展させていけると良い。
- ・子どもを信じ、やることを見守り、指示を出さない。困ったときに言い出せるように言っても大丈夫な関係性を作る。
- ・コーナーは必要だが何に興味があるのか、この行動にどんな意味があるのかをキャッチできるかがポイントになる。

〈乳児〉

- ・3歳児との保育室が離れているので意図的に見に行く機会を作る。幼児へ行く子、部屋で遊ぶ子、気持ちを尊重していて良い環境となっている。
- ・ごっこ遊びを十分にさせて欲しい。（見立てられる工夫・用具、素材の準備）物足りなくなったら幼児のほうで混ぜて遊ぶ。
- ・給食は流れができています。今後は保育者が入れるようにし、一緒に声かけしながら食事が楽しくなるようにしていく。
- ・何かを見ている後ろ姿→興味をもって見ているか、観察学習をしているのか後ろ姿を大切にしたい。観察→模倣→観察→模倣を繰り返しながら子どもは学んでいくため、学び中や観察中は他の活動に連れていくのはダメ。
- ・喃語にも優しく答えていて子どもに寄り添っていた。
- ・何かに夢中になっている背中良さを保護者に発信してみても？

◎2回目（10月）

〈幼児〉

- ・「言ったら負け」大人の言葉かけ、伝え方に気をつけていく。声かけの引き出しをたくさん作っておくと良い。
- ・禁止・否定語は使わず、やっていい事を伝えていく。
- ・モデルを示すのは良いが、手を出さずに共感したり、後ろ姿だけを見せたりしていく。
- ・異年齢交流が自然とできていていい。
- ・泥遊びで夢中になっている姿を保護者に伝えて楽しんでいたことを共有する。声かけを考えると共に活動内容を知ってもらえるように発信していく。

〈乳児〉

- ・テラスなどを利用し、おやつ場所を変えて食べてはどうか？
- ・クラスに安心して遊ぶ子もいれば、ハロウィンごっこなど冒険に行く子もいてそれぞれの活動ができていてよい。
- ・給食で苦手なものを食べる時、「一口だけ食べてみようね」ではなくもっと子どもが食べたいと思えるような言葉をかける。
- ・自分の部屋にも楽しめるものがあり、安心できる自分の居場所があるから外へ（部屋以外）へ出て行ける。
- ・何が育っているか？何が必要か？を考え環境の再構成をしていく。

<成果と課題>

	成 果	課 題
0・1歳児	<ul style="list-style-type: none"> 個性に寄り添うことを意識することで子どもの行動をよく観察し、一人一人に合った環境構成をし、気になる行動を楽しめる遊びへと変化させることができた。 きっかけは個人に向けた取り組みであったが、周りの子どもたちと一緒に遊びを楽しむことへ繋がり、クラス全体での遊びの充実に繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> 一見マイナスに思える行動をプラスの活動へと変化させていくためには保育者間でいろいろな角度から考え話し合っていく必要がある。 年齢が低いと思いを言葉で表すことができないため、普段から信頼関係を築き、表情や仕草の変化を見逃さず、保育者が思いを汲み取る必要がある。
2歳児	<ul style="list-style-type: none"> 個性に寄り添う保育を考えていく中で、担任間で子ども一人一人について考えることに繋がった。 興味のあることを楽しめるような環境を作ることで、のびのびと色々なことに挑戦しようとする姿に繋がったのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> 個性に寄り添う保育を考える中で、『できないこと』を考えてしまうことが多くなってしまった。好きなことなども伸ばせるような環境作りを心掛けたい。 一人一人に寄り添うことを意識したことで、寄り添い切れていないと思う部分があることがわかってきた。担任、他の職員など色々な角度から個に対応していきたい。
3歳児	<ul style="list-style-type: none"> 担任間で話し合う機会を多くもつことで、環境構成や子ども理解など共通理解をしながら保育を進めていくことができた。 生活面では、自分でできたという経験を積み重ねていけるように最小限の声掛けで見守っていくことで自分から取り組めるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> できることは増えたが、まだ経験不足のことや個別対応が必要な場面が多いので、引き続き丁寧な関わりをしていくと共に、園全体で情報共有していくことが必要である。 遊びが見つからない子や遊び込めない子の興味のあるものを取り入れたが、継続する難しさを感じたので環境を工夫していく必要がある。
4歳児	<ul style="list-style-type: none"> 個性に寄り添った環境を整えることで遊びを見つけ、楽しむことが出来た。 保育者との一対一の関わりを意識的に持つことで、友達と関わるきっかけになった。 子どもの興味関心を捉え、保育に取り入れた事で新たに興味を持つ姿や挑戦する姿が見られ、その姿を認めたことで自信や意欲に繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味関心を引き出せたが、継続的に遊ぶ環境構成や保育者の援助が難しかった。 子どもの姿にあった対応の仕方を担任間だけでなく、園全体で共有することの難しさを感じた。
5歳児	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを信じて口を出しすぎず、見守ることの大切さを学べた。 子どもが気付けるように保育者がモデルとなりやってみることで自分のやりたいものを選択することができた。 子どもに対しての声掛けを工夫するようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々に応じた対応をするための人的環境を整えること。 担任だけではなく、他の職員との情報共有や子どもについて語り合うことが必要である。

【1】 保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの最善の利益の考慮 ●組織としての基盤の整備 ●社会的責任の遂行 ●健康及び安全の管理 ●職員の資質向上 	<p>子どもの最善の利益を考慮し、子ども主体を意識しながら保育を行ったが、外部講師からの「自主性と主体性は違う」という言葉で、どのように子どもたちと関わることが子ども主体なのかを考える1年間となった。所内研修や職員間の話し合いで、職員が活発に発言し互いの思いに気づくことができたことは、同じ方向を向き、より良い保育の展開につながった。昨年度に続き、研修を受けた職員が中心となり、「子どもの人権に配慮した保育」について語り合う場を設け安心安全な保育所でなければならないことを再確認した。</p>
--	--

【2】 計画に基づく評価

<ul style="list-style-type: none"> ●全体的な計画 ●指導計画 ●週日案 ●個別支援計画 	<p>市内共通カリキュラムを基に、全体的な計画、月指導計画（乳児）、週指導計画を作成し、実践、振り返りをした。「個性に寄り添うことでうまれる環境構成と保育者の関わり」をサブテーマに、子ども理解し、一人一人に合った関わりや環境構成を行った。今年度“こうでなければならない”という思いをやめ、子どもたちと運動会の内容を決めたことで、生き生きとした子どもたちの姿があり、子ども主体の行事になったことは保育者の学びとなった。配慮の必要な子どもの個別支援計画を作成し、専門機関の助言を全職員で共通理解しながら保育を進めた。</p>
---	--

【3】 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

<ul style="list-style-type: none"> ●入所する子どもの家庭との連携と子育て支援 ●地域の保護者に対する子育て支援 ●地域における連携交流 	<p>クラスボードやドキュメンテーションを掲示するとともに、送迎時に保護者と子どもの様子を伝え合いコミュニケーションをとることを心掛けた。また、保育所だよりや通信の中で、保育所での子どもの様子や保育の意図等、保護者へ発信し保育の可視化及び保育所理解に努めた。子育て電話相談の実施を広報、ホームページに掲載したが利用はなかった。小中学校との連携として、小学生と年長児の交流会や職場体験等の受入れを実施した。また、プルタブなどを集め、定期的に社会福祉事業団へ届け、地域とのつながりができた。</p>
--	---

<まとめ>

昨年度は、子どもたちの個性に寄り添う保育をテーマに設定し、一人一人がやりたいことやできることを見極めて保育していく大切さを学んだ。そこで今年度は、昨年度のテーマを継続しつつ、「環境構成と保育者の関わり」に焦点を絞りテーマを設定した。

子ども一人一人に寄り添うことで、興味のある遊びを十分楽しめていない子どもの姿に気付くことができた。意欲が高まるような環境設定や、遊びの発展を意識した環境の再構成をしていくと共に、保育者が遊びのきっかけを作ったり、モデルとなったりして楽しさを知らせていくなど関わり方を工夫した。すると、興味のある遊びに自分から取り組んだり、遊びを通して友達との関わりを広げたりする姿が見られるようになった。興味のあることを思う存分楽しむ中で新しいことに挑戦したり、意欲的に活動したりする姿が見られるようになり、その姿を認めることで自信に繋がった。また、きっかけは個人に向けての取り組みであったが、クラス全体の遊びへと発展した。保育者の関わり方においては見守ることが主体性に繋がったが、低年齢程見守るだけでなく、その子に今何が必要か、どのような関わり方をすれば遊びが発展するのか、保育者の関わりが子どもの遊びに大きな影響を与えることを学ぶことができた。

巡回指導で助言を受け、自主性と主体性を具体的に考えることや、言葉掛けの工夫、伝え方次第で子どもが自ら考えて行動できるようになることも学びになった。「やってみよう」という気持ちを引き出し、行動を起こすきっかけを作る働きかけができるよう保育者自身が知識や視野を広げていく必要があると実感した。また、子どもたちが話し合いをする機会を作り、自分たちで決めて行動する経験を積むことが大切であると感じた。

今回の研修で改めて子ども一人一人に目を向けることの大切さに気づき、環境構成や保育者の関わり方の工夫で、子どもの自信や意欲が高まっていくのを実感できた。普段から子どものことについて語り合える場を大切に、園全体で一人一人に寄り添える保育を行うことを目指していきたい。

令和6年度
所内研修まとめ

市立保育所・認定こども園共通テーマ

「生きる力を育む」

第3保育所サブテーマ

「子どもの心の育ちを考える

～ 子どもたちの想いを実現するために～」



東金市立第3保育所

市内保育所・こども園共通計画テーマ
「生きる力を育む」

昨年度サブテーマ「子どもの心の育ちを考える～人との関わりの中で～」から・・・

＜昨年度の子どもの姿からの考察＞

- ・子どもが保育者に気持ちを受け入れられることで、自分を表現し、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じられるようになってきている。
- ・異年齢交流の機会を増やしたことにより、年下の友達を思いやる気持ちが育まれていったように思う。

＜課題＞

- ・友達と一緒に遊ぶ中で、友達に対して強い言動になってしまい、トラブルに発展してしまうことがある。
- ・様々なことに興味をもつが、一つの遊びが継続しない。
- ・友達とのトラブルの時や、次に何をすることが分からない時など、保育者に頼ってしまい、自分達で考えて行動しようとしにくい。



＜保育者の願い＞

- ・友達と一緒に生活や遊びを進める中で、自分の思いを出しながら良い関係が築けるようになって欲しい。
- ・様々な活動に興味をもち、挑戦して欲しい。
- ・周りの様子や友達の思いに気付いたりするなど、自分で考えて行動できるようになって欲しい。

サブテーマ

子どもの心の育ちを考える～子どもたちの想いを実現するために～

【仮説】

- ・自分の気持ちを伝え、伝える楽しさを積み重ねることで、相手の話にも耳を傾けられるようになり、互いに思いを出し合える関係が気付けられるようになるだろう。
- ・ありのままの姿を受け止めたり、認めてもらったりすることで気持ちが安定し、自ら様々な遊びに取り組むことができるだろう。

【手立て】

＜人的環境＞

- ・子どもたちへの声掛けの仕方を変えてみる。
- ・子ども一人一人の思いをその時の場面ごとに拾い上げられるようにする。
- ・子どもたち自身が考える機会を作っていく。

＜物的環境＞

- ・様々な素材や道具を用意し、やりたい遊びが実現できるようにする。

【研究方法】

- ・巡回指導での助言を受け、保育の振り返りをし、反省点や改善点を話し合い、見直していく。
- ・職員間で子どもの様子や遊びの様子などを伝え合い、共通理解を深めていく。
- ・日常の保育での子どもの姿、保育者の関わり、反省、課題などを記録していく。

【伊藤先生巡回指導】

第1回 (5月30日)

<乳児>

- ままごとコーナーにて、安心できる保育者のそばで、子どもたちが落ち着いて遊んでいた。また、保育室の環境が、0, 1歳児に合っている。
- 一人一人の思いを拾い上げていくことが大切。子どもに対して共感的な言葉が多かったのが良かった。
- コーナーが充実していて、このコーナーではこの遊びができるというのが分かった。また、コーナーごとに保育者の願いが伝わってきた。
- 異年齢交流も大切だが、安心できる保育者がここにいるからここで遊ぼうと言う気持ちも大切。

<幼児>

- このコーナーではこの遊びができるというのが分かりやすかった。(子どもが継続して遊べる環境)
- 保育者は全体を見られる位置にいて、「目を配ってるよ」という気持ちが伝わるようにすると、子どもたちも安心する。
- 戸外遊びのジュース屋さんを室内遊びでも取り入れていて良かった。
- 「片付けようね」の声を掛けたら片付けが終わった後に、認めてあげる声を掛けてあげると良い。
- 一つの遊びが継続しないと言うが、今日見るとほとんどの子が各コーナーに行って遊んでいた。飽きてくると園庭の真ん中に集まってくるので、今後そこに注目してみると良い。
- 色々なコーナーを転々としていたら、その子が集中して遊べるようにもう一つコーナーがあると良い。
- 今後ジュース屋さんはお客さんが来てカフェなどができたら良い。作業台が狭く、「狭いからやめよう」と思う子もいると思うので、作業台を広げると良い。
- 砂場は長いホースを使用し、子どもたちが水を使いやすいようにしてあり良かった。

<全体>

- 遊びが継続できるようになると心の育ちになる。
- 遊びが面白いと喧嘩をしなくなる。

第2回 (10月10日)

<乳児>

- 動きのある遊びと静かに遊べるスペースがあって良い。また、0, 1歳児の保育室には、ままごとコーナーがないことがあるが、設定されており良かった。入所した時から卒園するまで、ままごと遊びが出来るのは良いことである。
- 前年度の子どもの姿から、今年度も遊びを考えていて良かった。
- 写真付きで片付ける場所が分かりやすくなっていたり、好きな遊びが落ち着いて楽しめていた。
- 日頃の遊びが運動会に繋がったようで良かった。
- 手作り玩具が充実している。その中で、既製品も取り入れながら工夫が見られる。
- 子どもに合った遊びを楽しんでいる。
- 買い物ごっこは魅力的なので、他の年齢の子も遊びに来ている。異年齢交流が見られて良かった。
- 乳児全体では、発達、子どもの思いに合った保育室になっている。

<幼児組>

- 保育室での職員の立ち位置は、動き回らず、遊びを見守っていることが良かった。
- コーナーが充実していて、隣のクラスを行き来しながら楽しんでいて良かった。
- 職員同士で子どもたちの良い所を情報交換していくと良いと思う。

【担任からの質問】

- 強く自分の気持ちを伝えてしまう子への対応はどうしたらいいのか？
回答…職員が子どもに強く言われた時に、言われて嫌だった気持ちを伝える。
- ブロック、LaQ など作った物を壊してしまう子がいるので、いろいろな工夫はしているが、飾っておくことが難しい。
回答…壊されてしまう子が、隣のクラスで落ち着いて好きな遊びをし、作ったものを飾っておける環境ができていますので、それで良いのではないかと。
- 友達同士のトラブルの対応
回答…気持ちを表現できない子は、保育者が代弁してあげる。次に自分で相手に伝える。できたら、その気持ちを認めてあげる。

<全体>

- 室内外で遊びが充実し、楽しんでいる様子が見られた。
- ホールのダンスコーナーは、全ての年齢の子が踊っている姿が見られ良かった。その中で、子ども同士で学び、感じ合っている。年上の子を真似しているだけでなく、年下の子が頑張っている姿を見ていたりする。
- 第3保育所での規模で出来ることを十分にやっている。また、職員が一人一人の気持ちを大事にしたいことも伝わってきた。

【成果と課題】

	成果	課題
0, 1 歳児	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢交流を通し、「何をしているのかな?」「やってみたいな」と幼児の遊びに興味を持ち、真似をして挑戦する姿がでてきた。0, 1 歳児だから「できない」ではなく、安全に危険のないよう、職員間で連携をとり、「やってみたい」という気持ちを拾い上げ、受け止めて経験させていくことで、0, 1 歳児なりにいろいろなことに挑戦する姿が見られるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と関わって遊ぶ姿が増えてきたが、友達の輪の中にうまく入れず、一方的に玩具を取ったり、噛みついたりし、遊びが中断し、友達が離れていってしまうことがある。「邪魔されずに遊びたい」「仲間に入りたい」など、子どもたちの想いを実現できるように保育者が気持ちを受け止め、仲立ちとなり、一人一人が楽しく遊べるようにしていきたい。
2 歳児	<ul style="list-style-type: none"> 個々に好きな遊びを楽しんでいたが、異年齢交流ができる機会を増やしていったことで、様々なことに興味、関心を持ち「これがやりたい」など子どもたちから意見が出るようになってきた。また、意見を取り入れて遊びが広がっていった。 友達との関わりが増える中で、トラブルも多くなったが、相手の気持ちに気付き、優しく声を掛ける姿も見られるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々なことに興味、関心をもって「これがやりたい」と言ったことを実現していきたいが、安全面などから難しい場合もあるので、年齢に合った方法で実現できるようにしていきたい。 友達との関わりの中で、自分の思いを通そうとする姿も見られるので、相手の気持ちに気付けるよう、一人一人丁寧に関わり方を知らせていきたい。
3, 4, 5 歳児 ひまわり組	<ul style="list-style-type: none"> 集団で体を動かす遊びや、友達との関わりを意識した遊びを経験していくことで、子ども同士でのやり取りが増え、自分の思いを伝えたり、相手の思いに気付けるようになってきた。また、周りを意識できるようになったことで、生活面においても、見通しをもって自分から行動できるようになってきた。 他クラスや異年齢児との交流が活発になり、異年齢児に関心を持ち、優しく接する姿が見られるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いや遊びの中で、互いの思いを伝えられるようになってきたが、口調が強かったり、なかなか自分の気持ちに折り合いが付けられない子が多いので、伝え方や解決の仕方を子ども同士で見つけられるようにしていきたい。 継続して遊びを楽しみ、発展させていくという経験がなかなかできなかった。作った作品を壊されることのない、子どもたちの発想を形にしやすい環境作りを心掛けていきたい。
3, 4, 5 歳児 さくら組	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが今興味があることを遊びのなかに取り入れることはできないかを考え、遊びのコーナー作りを行ってきた。アイス屋さん・ピザ屋さんごっこでは、クラスでの遊びから広まり、キッチンカーを作り販売しに行くことで、異年齢児との関わりがもて、子どもたち主体で遊べるようになったと感じる。子どもたちの意見を尊重して保育することの大切さを実感した。 	<ul style="list-style-type: none"> 好きな遊びを友達と一緒に楽しむ姿が見られるようになってきているが、友達との意見の言い争いも見られるようになってきている。お互いの気持ちを伝えあう場面を見守り、子どもたちで解決していける場面をたくさん作っていききたいと思う。 遊びながら、感情を表現しながら成長に繋がっていけるように援助していこうと思う。

【1】 保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの最善の利益の考慮 ●組織としての基盤の整備 ●社会的責任の遂行 ●健康及び安全の管理 ●職員の資質向上 	<p>子どもの最善の利益を考慮し、一人一人の人格を尊重し、寄り添いながら、「やってみたい」ということを受け止め、実現できるよう職員間で話し合い取り組んだ。異年齢交流が盛んになる中で、安全面には十分注意を払い、職員間で連携して対応していくことができた。所内研修をはじめ、様々な研修から得た情報を回覧し共有することで、職員の資質向上につながった。</p>
--	---

【2】 計画に基づく評価

<ul style="list-style-type: none"> ●全体的な計画 ●指導計画 ●週日案 ●個別支援計画 	<p>共通カリキュラムを基に、全体的な計画、乳児組月指導計画、週指導計画を作成し実践した。毎週、週案会議において、子どもたちの様子などを伝え合い、反省し、次の実践につなぐようにした。所内研修を通して共通理解が深まり、異年齢交流も活発に行われ、遊びも充実し、子どもたちの心の育ちにつながった。また、配慮が必要な子どもの個別指導計画を4期に分けて作成し、個々の発達に合わせた支援を行う事ができた。</p>
---	--

【3】 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

<ul style="list-style-type: none"> ●入所する子どもの家庭との連携と子育て支援 ●地域の保護者に対する子育て支援 ●地域における連携交流 	<p>送迎時に保護者との対話を大切に、子どもの様子を伝え合い、コミュニケーションを図っている。ドキュメンテーションの掲示や保育所だよりの中で、保育所の様子を保護者へ発信し、子どもたちの成長を共有した。アンケートを実施し、子育ての悩みなどを拾い上げ、希望者には個別面談を実施した。地域においては、積極的な交流は出来ていないが、地域コミュニティセンターの掲示板を活用し、保育所の様子などを発信した。</p>
--	---

<<まとめ>>

人との関わりから心の育ちを考え取り組んでいく中で、友達に対しての強い言動、遊びが継続しない、自分で考えようとせず、保育者に答えを求めるなどの課題が出てきた。また、本当に自分の思いを出せているのかという疑問も出てきたことから、保育者が働きかけの工夫を工夫し、子ども自身が考える機会を作り、一人一人の気持ちに寄り添うことを意識して保育してきた。

職員間で連携をとり、自分の遊びたいクラスへ遊びに行ける環境作りをしたことで、自然と異年齢交流が活発になり、異年齢児への関心が深まったり、優しく接する姿が見られたりするようになった。クラスの壁なく、気の合う友達と好きな遊びに継続して取り組み、イメージを広げることができたのは、今年度の取り組みの大きな成果だと思う。

子どもたちの想いを実現するため、保育者が子どもたちの想いを聞いたり、友達と意見を出し合ったりする機会を作っていく中で、自分の思いが通らず葛藤する姿や強い言動からトラブルとなる場合も多く見られた。その姿を保育者が認めながら解決方法を話し合い、じっくりと向き合っていくことで、相手の思いにも気付けるようになってきた。しかし、自分の気持ちに折り合いがつけられないこともまだ多いため、自分の思いを出しながら、友達と良い関係を築くにはどうしたらいいのか、子どもたちと保育者が一緒に考えながら、見つけていけるよう援助していきたいと思う。

所内研修を通して、保育を振り返り、反省・共通・改善することは、職員の連携にも繋がっていたので、引き続きより子どもに寄り添った保育を一人一人が意識し、取り組んでいきたい。

令和6年度
園内研修まとめ

市内保育所・こども園共通テーマ
「生きる力を育む」

サブテーマ 「やってみたい」をやってみよう
～つながりから広がる遊び～



豊成こども園

市内保育所・こども園共通テーマ「生きる力を育む」

☆昨年度のサブテーマから…

- ・保育者が意識的に異年齢交流の場を整えたり、積極的に他年齢の子どもたちに関わっていったりしたことで、子どもたち同士の自然な関わりが多く見られるようになった。研修を通して、自分から交流をもつことが難しい子への援助、保育者間の共通理解、意識の共有、人的な環境の大切さも実感した。今年度は、異年齢交流で深まってきた子どもたちのつながりを活かし、更なる遊びの充実を目指していく。

☆子どもの姿

- ・徐々に園生活に慣れ、好きな遊びを楽しみ、年上児との関わりも増えてきた。
- ・新しい環境に慣れ、制作ややってみたい遊びを友達の姿を見て、楽しむ姿が見られるようになってきている。
- ・やりたいと思う遊びや活動はあっても、自分の思いばかりを一方向的に伝えてくる子が多く、遊びが進まない。

☆保育者の願い

- ・異年齢児の姿を見て、様々なことに挑戦してほしい。
- ・自分のクラスだけでなく、様々なクラスの遊びを見て、刺激を受けやってみたいを見つけてほしい。
- ・友達と思いを共有し考えたり挑戦したりする中で、共通の目的に向かって取り組めるようになってほしい。

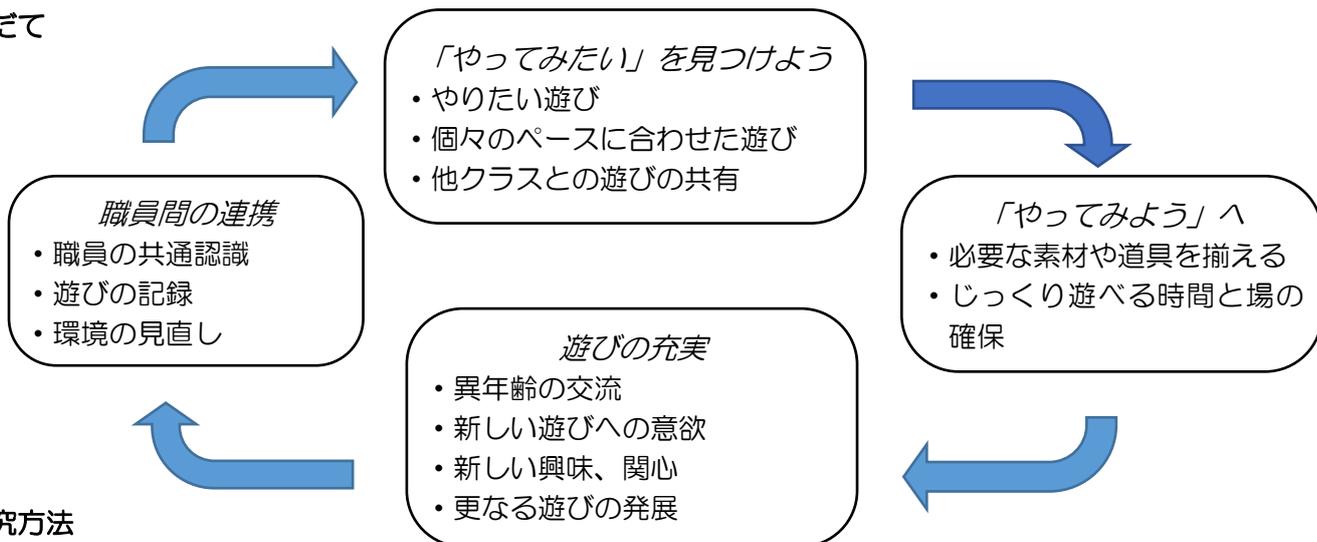


サブテーマ 「やってみたい」をやってみよう
～つながりから広がる遊び～

☆仮説

- ・異年齢の子との関わり、身近な友達の姿がいろいろな遊びへの興味関心につながり、「やってみたい」という気持ちにつながるのではないか。
- ・遊びを選べる環境、失敗してもくり返し挑戦できる環境を整えていくことで、やってみようという意欲につながるのではないか。
- ・職員間で遊びの経過を共有し、一人一人の取り組みや今後の展開等、共通の意識をもって援助できるようにすることで、より遊びが発展していくのではないか。

☆手だて



☆研究方法

- ・週案会議を活用して、(月1回会計年度任用職員も参加する)室内戸外の遊びの様子や経過を話し合い報告することで、共有し環境の見直しや活動内容について話し合う。
- ・子どもたちの遊びの経過や発展した様子などを写真に撮り、記録する。
- ・巡回指導での助言を受け、改善点や反省点を話し合い見直していく。

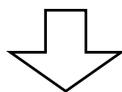
第1回目（9月9日）

○良かった点

- ・異年齢児が自然と混ざり合っていて遊んでいた。
- ・4歳児の恐竜ワールドには、子どもらしさが残っていて良かった。
- ・廊下を使用してガンガン遊んでいて、すごくいい。
- ・電車やウーバーイーツで異年齢のやり取りができています。
- ・上から吊るしてある、シンバイザメやたこ、カラーポリのシートの高さを変えられるのはいい。
- ・全体的に楽しむコーナーがいっぱいあり、保育室だけでなく廊下も利用して全園児が同じ空間で遊べており、観察・模倣行動も引き出せていて良かった。

○課題

- ・子どもだけでは、アイデアがでてこないと思うので、大人がモデルになって一緒にやりながら最終的には子どもに任せるとよい。
- ・子どもの実体験を（お金・携帯電話での電子決済・タブレットでの注文など）どのようにお店屋さんごっことして、リアルを子どもたちが表現できるようにしていくか。



第2回目（11月27日）

○良かった点

- ・異年齢で自由に行き来して遊んでいる姿が魅力的で良かった。
- ・あらかじめ用意（意図）された環境の中に、主体的に入っていくことが出来ていて、小さい子ども自己選択・自己決定できていた。
- ・前回の巡回指導から3か月経つが、その時より遊びが増えている。
くり返しながらかつたれていて（飽きている子もいるが…）継続して遊びが続いている。
- ・大人が作業する姿をどうみられているかを意識し、子どもに後ろ姿を見せることで、子どもがカッコイイと思えるようなモデルとなっていた。

○課題

- ・大人のモデルも必要であり、コーナーに物があるだけでは盛り上がらないので、盛り上げるためには5歳児が必須であり、どうつなげていくかが課題である。
- ・1つのヒントとして、ごっこ遊びの充実。もう1つは、絵本や図鑑、お話を作ってみるのもいいと思う。ごっこ遊びと合わせて、ストーリーを載せてみても面白いと思う。

○園内研修の成果と課題

	成果	課題
乳児	<ul style="list-style-type: none"> •全ての遊びを全園児が楽しめたことで、年上の子が年下の子の見本となっていた。 •異年齢交流を多く取り入れたことで、もも組児が幼児クラスやホールへ行くことにも抵抗がなく、関わりが増えてよかった。 •幼児組のお店屋さんごっこに参加したことで、自クラスでのごっこ遊びも盛り上がった。 	<ul style="list-style-type: none"> •幼児組からの発信を受け、乳児（もも組）なりに簡単な作ったものを販売できたら良かったのではないかと。（小さい子からの発信） •室内だけでなく、戸外遊びも興味をもつものが多く、よく遊ぶ姿があるが、幼児との時間が合わないことが多かったので一緒にキャンプで遊ぶ機会が少なかった。もう少し戸外で遊ぶ時間をずらしても良かったのではないだろうか。
幼児	<ul style="list-style-type: none"> •自ら選んで遊べる環境を整えたことで、3歳児でも自分でやりたい遊びを見つけ準備をして遊び込めるようになった。4、5歳児の姿を見て一緒に遊ぶ中での学びがあった。 •幼児組の各クラスで始まった廃材制作が廊下やホールに広がり、異年齢交流が深まった。 •「〇〇やりたい」という声が子どもから聞こえることが増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> •異年齢で遊ぶ時間や環境作りは引き続きいろいろな遊びに興味、関心をもてるようにしていく。 •環境が整っているのはいいことだが、常に物（素材）があることで、目的もなく廃材が無駄になることもある。丁寧に使い方を伝えることが必要である。
全体	<ul style="list-style-type: none"> •園のサブテーマを全職員が共通理解をし、子ども主体の保育を進めていくことで、子ども発信の遊びの展開ができた。 •子どもたちの遊びをよく観察し、次にどのようなものが必要か、子どもたちの成長・発達に応じた環境を整えたことで、夢中で遊ぶ姿が増えた。 •園全体で遊びの共有を図ってきたことで、良い刺激となり更なる遊びの発展へと繋がった。「やってみたい」と思ったことに挑戦する意欲が育ってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> •自然がある環境が園外にあることで、自園の園庭を活かしきれなかった。園庭を活かした環境作りを今後考えていきたい。 •異年齢での交流が深まってきているので、存分に楽しめる環境を整え、各クラスどこでも遊べるような、関係、関わり、室内環境を用意できたらよいのではないかと。 •職員間の遊びの共有を図り、室内だけでなく、戸外でもどんな遊びやコーナーを設定するかを話し合い展開していく必要がある。

【1】保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの最善の利益の考慮 ●組織としての基盤の整備 ●社会的責任の遂行 ●健康及び安全の管理 ●職員の資質向上 	<p>保育者は、子ども一人一人の「やってみたい」気持ちが実現できるように保育環境を整え、さりげない声かけや見守りの中で、学年を問わず遊びが展開できるように取り組んだ。その場面で様々な経験をしながら、次はこうしてみようと考えることができるようにした。外部講師よりアドバイスをいただき、園内研修にて、職員全体で保育の振り返りや意見交換等をし、共通理解を図っていった。</p>
--	---

【2】計画に基づく評価

<ul style="list-style-type: none"> ●全体的な計画 ●指導計画 ●週日案 ●個別支援計画 	<p>保育理念、教育保育目標、共通カリキュラムをもとに、一人一人の子どもの様子や個性を捉えながら、全体的な計画、月指導計画、週指導計画、個別支援計画を作成し、保育に取り組んだ。自園のテーマ『「やってみたい」をやってみよう』に沿って、環境設定や環境の再構成を考えていった。自クラスの枠を超えて、自分の遊びたいところにおいて楽しみながら、自然と異年齢交流を持ち、その中で、様々な感情を感じながら、相手を思いやる気持ちを育てていたのではないかなと思う。</p>
---	---

【3】家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

<ul style="list-style-type: none"> ●入園する子どもの家庭との連携と子育て支援 ●地域の保護者に対する子育て支援 ●地域における連携交流 	<p>クラスボードやドキュメンテーションを掲示し、保育の可視化に努め、保護者が安心して子どもを託せるように心がけた。月2～4回の園庭開放を実施し、利用者も多く個々の子育て支援、相談に応じた。小学校との交流会を2回行ったり、食生活改善会による「手洗い教室」に参加したり、地域の方のご厚意により、チューリップ畑やイチヨウ畑の散策をさせていただき、園ではできない体験をすることができた。</p>
--	--

○まとめ

昨年度は、異年齢交流、友達との関わりの中で見える子どもたちの姿をサブテーマとして研究を進めてきた中で、自分から交流をもつことが難しい子への援助や「保育者間の共通理解」「意識の共有」「人的な環境の大切さ」を実感したとの事例から、今年度は異年齢交流が深まってきている子どもたちのつながりを活かし、「やってみたい」をやってみよう～つながりから広がる遊び～をサブテーマとして、さらなる遊びの充実を目指していこうと研修を進めていった。

研修では、「やってみたい」の気持ちがもてるような環境、環境を整えたその後の様子、子どもの姿、保育者の関わり方、異年齢の交流、そこから見えたつながり、振り返り、アドバイス等を3グループに分かれて話し合う。各グループで選んだ写真を読み取り付箋を色分けして書き出し、子どもの姿から繋がる遊びや工夫したことなどを話し合ってきた。

自クラスでの遊びが盛り上がり、ホールや廊下へ飛び出し、お店屋さんごっこから屋台へ、新幹線・電車から宇宙船、ピザ作りからウーバーイーツ、バーベキュー・キャンプごっこなどの遊びに展開していき、異年齢でも関わりながら一緒に遊んでいく中で、小さい子に対して優しく接する姿や年上児の姿を見て真似をするなどの姿も見られるようになった。室内だけでなく、戸外でも同じように遊べる環境を整えたことで、「やってみたい」をみつけて「やってみよう」に変わり、遊びをくり返し継続させ、新しい遊びになったり発展したりしていく姿も見られるようになってきている。また、いつでも自分たちで留意して遊べるように環境設定したことで、自分たちで考えて準備して遊ぶことができるようにもなり、様々な場面で遊びが広がっていったのではないだろうか。このことから子どもたちの「やってみたい」意欲を引き出していくためには、職員同士の連携や共通理解が必要不可欠であり、そうした関係性の大切さを改めて感じつつ続けていきたいと思う。今年度の様々な遊びを経験してきたが、まだ遊び込めていない部分もみられる。引き続き「やってみたい」をやってみようとする子どもの思いを大切に保育を進めていきたい。

令和6年度 園内研修まとめ

共通テーマ「生きる力を育む」

サブテーマ「園の周辺の楽しい場所を探してみよう！」



東金市立福岡こども園

市内保育所・こども園共通テーマ 「生きる力を育む」

昨年度の子どもの姿から・・・

園の周辺が自然豊かな福岡こども園。昨年、自然の中を散歩していると空き地を偶然見つけ「ぶらんこ森」と年長児が名付けた。その後も遊びに行く機会を作っていくと、整地されていない自然の中で様々な体験ができ、自然の面白さや時には怖さを身をもって感じ、子ども自身の学びへとつながってきている。散歩を通し自然と異年齢交流も増え、関わりを深めながら遊びを楽しんでいる姿が見られた。また、子ども自身で考える力が身についてきており、子どもが主体となって活動できるようになってきた。

今年度ぶらんこ森に行ったところ・・・

4月当初、昨年度から散歩に出掛けているぶらんこ森に幼児組で行ったところ、水没していて遊ぶことができなかった。がっかりした様子の子供達にどうしたらよいかを悩ませてみたところ、「違うところに行ってみよう！」という子どもからの声が上がった。そこで、いつもと違う場所に足を伸ばしていくと、自分達なりに新しい場所を発見したり遊ぼうとしたりする姿が見られ、年長児を中心に「もっと楽しい所に行きたい」と声上がり、楽しい場所を見つける探検が始まった。



- ・自分達の地域に愛着や興味をもってほしい。
- ・豊かな自然の中で、五感を豊かに育ててほしい。
- ・自然で体験した不思議さや面白さを、学びにつなげてほしい。

サブテーマ 「園の周辺の楽しい場所を探してみよう！」 ～自然を通して様々な体験を楽しもう～

【仮説】

- ・地域の環境に目を向けていくことで新たな場所を発見できるのではないか。
- ・子ども主体の活動を通して、自分で考えて遊びを進めたり友達とも関わりを深めたりすることで自信や達成感へつながるのではないか。
- ・協力して何かをなしとげ力を合わせていくことで、関りが深まっていくのではないか。

【手立て】

- ・散歩に行く機会を週一回作っていく。
(季節や気温に応じて)
- ・子どもの気づきや発見を受け止め、散歩に行く場所や持って行く物を決めていく。
- ・年長児を中心に散歩マップを作成していく。
- ・保護者にもドキュメンテーションを掲示し発信していく。

【研究方法】

- ・園内研修の中で、散歩の様子や場所の確認をし、作成したドキュメンテーションをもとに、情報交換を行い、職員間での共通理解を図っていく。
- ・巡回指導での助言を受け、反省・改善点を話し合い、課題の見直しをしていく。

●第1回巡回指導を受けて（6月）

【園の特徴、良い点】

- ・園の回りの環境が自然豊かであり、子どもにとっても発見が多く、魅力的な場所で恵まれている。福岡こども園の特色であり強みである。この環境を活かしてほしい。
- ・今年度のサブテーマにつながっていて良い。
- ・園周辺の交通量が少なく、子どもが安全に歩きやすい環境だった。

【幼児】

- ・散歩で行った『浅間神社』の切り株ジャンプでは、「危ないよ」と大人が静止する声が少なく伸び伸びと遊べていて、最後まで途切れず遊び込めていた。
→どこに何の魅力があるのか拠点を探すと良い。遊びが展開しそうな場所を予想しておく。
- ・ザリガニ釣りでは、楽しそうな保育者の姿がモデルとなっていて子ども達に楽しさが伝わっていた。

【乳児】

- ・保育者の目が届く場所で、離れていても安心して遊べていた。
- ・砂遊びの場面では、寄り添う保育者がいて、子どもの遊びの姿を認めてあげるとよかった。
→認めてあげることで、遊びが広がり子どもの自信へとつながる。

【今後の課題・検討事項】

- ・散歩に行きたくない子への対応→散歩先でも好きな遊びを設定(どんぐり拾い、自然物制作、等)
- ・安全面や人員配置→散歩の下見や、危険なところを把握し、様々なことを想定していく。
- ・散歩の目的→歩くだけではなく、何をしに行くのか明確にしていく。必要な道具は何か。



●第2回巡回指導（11月）

助言を受けての変化（○） 今後の課題（☆）

【乳児】

- ・園庭を贅沢に使い、伸び伸びと遊べていて良かった。
- ☆乳児の様々な経験が幼児の成長の土台となっていく。乳児から発達連続性を意識することが大事。
- ・園庭でのカマキリの観察をする場面では、虫が教材となり遊びにつながっていて良かった。
→触れないが興味がある子に対して、虫メガネがあると触らなくても観察できる活動となる。
→虫が苦手な子が多いため、保育者が意図的に触れるような経験を作るとよい。
- ・外で遊ぶ子が減っている。保育現場で自然に触れられる経験を増やしてあげることが大事である。
- ・散歩に無理に行かなくても、戸外で体力が作られ、風を感じる事ができているならば良いと思う。
今楽しんでいることを、十分に楽しむことが大事。

【幼児】

- ・散歩で行った『ぶらんこ森』では、アクティブな動きのある遊びと制作などの静かにじっくりできる遊びが設定されていた。何種類もの遊びの設定が、子ども達の散歩へ行くきっかけとなっていた。
→子どもの姿を見て、どういった環境にしていくのかどのような展開ができるか続けていくとよい。
- お散歩マップが作成され、危険な箇所や遊びの設定など職員間で共有できていて良かった。
→保護者も含めて全員の共通理解があり、協力や信頼関係でできている活動。子どもの育ちにつながる事がたくさんある森だと思う。
- ・自然活動は不必要なケンカが起きない。子どもの情緒の安定の面にも、とても良い活動である。
- ☆じっくり遊びたい子に対して、メジャーで長さを計ったり重さを量ったりする道具があるとよい。
虫メガネや観察器は、本物を見る体験ができ自然のおもしろさや不思議につながる。
- ☆五感を豊かにするために、もっと楽しめる方法があると思う。
→感触、目で見て感じる、音を聞いてみる、匂い。
→録音(風、鳥の鳴き声)、子どもが絵を描き見た景色を残す。など。

●園内研修の成果と課題

	成 果	課 題
乳児	<ul style="list-style-type: none"> 園内でも自然にたくさん触れ、自然のおもしろさ、不思議を体験しながら伸び伸びと遊ぶことができた。(草花、虫、風、雨、日差し)また、自然に触れる経験を重ねる中で、自分で身近な自然を発見できるようになってきている。 体力面では、平ではない道を歩くことで自分でも歩き方や進み方を工夫する姿が見られ、脚力が成長してきたと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 園外となると安全面を考え、躊躇してしまう。身近な自然にも目を向け、年齢に合った自然との触れ合いを意識して、保育に活かしていきたい。 散歩に行く際は、安全確保のため事前準備(季節に応じての遊びの変化、天候、不測の事態など)を行っていく必要がある。 伸び伸びと自由に遊ぶ中でも、遊び方の約束事を職員間で確認し合い、情報を共有していく。
幼児	<ul style="list-style-type: none"> 散歩マップ(危険箇所、遊びの設定、職員配置)の情報を共有することで連携がとりやすく、職員同士の会話が自然と増え、職員間の雰囲気も良くなった。 年間を通して散歩に行くことで、園内では見られない自然に触れたり、季節ごとに変わる自然の変化やおもしろさに気がついたりすることができた。 散歩先で拾った自然物を、制作コーナーで使い、タペストリーやペンダント作りなど遊びの継続にもつながった。 園での活動だけではなく、休みの日もぶらんこ森に遊びに行く家庭が増えてきた。子ども達の遊びが園でも家庭でもつづき、保護者とも遊びを共有することができ、話題の一つになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ散歩先でも経験を重ねるごとに遊びが変化し、動きもダイナミックになっているため、日頃から話し合いを行い、危険の予測をしていくことが必要である。子ども達にも道具の使い方や遊び方の約束事などを、再度確認をしていきたい。 ぶらんこ森の管理が職員だけでは難しいため、今後も遊ぶには活動を工夫したり、新しい場所を開拓したりと、考えていく必要がある。 自然を通して子どもの育ちを豊かにするために、五感で味わい楽しめるような遊びの工夫をしていきたい。
全体	<ul style="list-style-type: none"> 遊びの様子を写真のみで掲示し、後日その写真を使ってドキュメンテーションを職員で集まり作成した。作成にあたり、情報交換や共有をすることで、見えないところで遊んでいる園児の様子を把握、危険箇所や次の遊びの方向性などを確認することができた。また、ドキュメンテーション作成の時間が楽しい時間となった。 保育者が子どもと一緒に自然に触れ、様々なことを体験したことで、改めて自然の心地よさや偉大さを感じることができ、自然の美しさを共有できたことは良かった。 園周辺の楽しい場所を探すことができた。子ども達が主体となって楽しい場所を探すことで、地域に愛着や興味もてるようになり地域の方との交流も広がった。 	<ul style="list-style-type: none"> 季節や気温に応じて、散歩に行くことは難しいため、園内でも自然と関わって遊べる工夫をし十分に楽しめる環境作りを行っていく。 保護者にもドキュメンテーションを掲示し発信したことで子どもや遊びの様子を伝えあうことができたが、保護者にも実際に体験してもらおうことで、より理解を深められると考える。 危険だと予想されることを、どこまで制限して見極めていくのが難しい。子どものやってみたいという気持ちを大切にしながら、楽しく安全に遊べるよう、引き続き職員間で共通理解を図っていきたい。

【1】 保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの最善の利益の考慮 ●組織としての基盤の整備 ●社会的責任の遂行 ●健康及び安全の管理 ●職員の資質向上 	<p>子どもの最善の利益を考慮し、一人一人が心身ともに健やかに育ち、豊かな心、逞しく生きる力を育めるように職員で共通理解を図りながら、園内研修を進めてきた。お散歩では、園外保育マニュアルの確認、お散歩コース・お散歩マップの作成、お散歩カードを使用し、安全面に十分配慮した。子ども達がより安全に活動を楽しめるように安全管理をし、職員で連携を密にとりながら、環境を整え、どの子も自然と関わりながら遊べるように工夫をしてきた。散歩の目的の明確化により、教材研究ができ、職員の資質向上に繋がった。職員も自然を通して様々な体験を子ども達と一緒に楽しむことができた。</p>
--	---

【2】 計画に基づく評価

<ul style="list-style-type: none"> ●全体的な計画 ●指導計画 ●週日案 ●個別支援計画 	<p>共通カリキュラムを基に、全体的な計画・週指導計画等を作成し、実践、反省をしながら保育を進めてきた。週案会議や園内研修では、子どもの姿を話し合い、情報共有し、いろいろな視点から環境構成・援助を考えることができた。また、巡回指導での助言を受け、改善点を話し合い、安全面や人員配置、散歩に行きたくない子への配慮などの見直しをした。経験を重ねると一人一人が自然に触れながら、季節を感じ、散歩に行くのが楽しみになっている。</p>
---	---

【3】 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

<ul style="list-style-type: none"> ●入園する子どもの家庭との連携と子育て支援 ●地域の保護者に対する子育て支援 ●地域における連携交流 	<p>保護者には、園や散歩での様子をドキュメンテーションで掲示し、子どもの姿や保育者の思いを知らせ、共有・共感することができた。自分達で見つけた自然物を園内で制作遊びに取り入れたことで遊びが継続し、作ったものを家庭に持ち帰ると保護者の理解も深まった。お散歩では、おひさま文庫・木原ストア・神社・小学校など、園の周辺の楽しい場所での体験ができ、地域の方と挨拶をしたり、交流したりすることが増えた。</p>
--	---

●まとめ

昨年度、偶然見つけた「ぶらんこ森」。4月に入り、楽しみにしながら幼児組で散歩に行ったところ、水没していて遊ぶことができなかった。そのことがきっかけとなり、園周辺の楽しい場所を見つける探検が始まった。昨年度から遊んでいた場所に加え、年長児が新たに少し離れたところにも楽しい場所があることを見つけた。写真で紹介したり散歩マップを作って発信したりしたことで、年下児も行ってみようとなり、足を運ぶようになった。子ども主体の活動を通して、住んでいる地域への親しみや自然の中で体験した面白さや、不思議を学びにつなげてほしいという思いから「園周辺の楽しい場所を探してみよう！」をテーマに研修を進めていった。

巡回指導で助言を受け、職員の立ち位置や遊びの設定、危険箇所を事前に情報交換し、散歩の配置図を作成したことで、職員間で共通理解を図ることができた。また、散歩に行く前に確認し合っていくことで、職員間の連携がとてもスムーズになった。以前は散歩に行きたがらない子への対応に悩んでいたが、ダイナミックな動きが苦手な子に対して、制作・絵描きコーナーなどその子が楽しく遊べる手立てを考えていくことで、散歩先での遊びが広がり子ども達にとっても楽しい場所となった。自然の中での過ごし方が広がり、環境構成の大切さを改めて感じる事ができた。

自然に触れながら遊ぶことで、自然の面白さや不思議さを子ども自身が発見できることが増えてきて、自然への興味・関心が広がってきている。散歩コースも増え、住んでいる地域に親しみや興味をもつことができたのも成果であると考え。一方で、今年度の経験を活かしながらどのような遊びが展開できるのか、もっと五感を豊かにできる手立てはないかと課題になっている。遊び方の工夫を職員間で考えていくとともに、経験を重ねるごとに動きが激しくなり遊びが変化してくるため、日頃から話し合いを行い危険の予想や把握をしていくことが必要であると考え。

園内研修を通して、子どもと一緒に自然の中で心動かす体験ができ、自然の美しさをあらためて感じる事ができた。引き続き、楽しく遊べるよう安全面の管理に努めていきたい。また、保育者自身も、自然に対しての知識を深め、危険を軽減しながら遊べる工夫をしていく必要があると感じる。今後も自然に触れた活動を通して、子どもの心が豊かな育ちにつながるようよりよい保育を進めていきたい。

令和6年度 園内研究まとめ

『生きる力』を備えた幼児の育成

サブテーマ 「伸び伸びと遊ぶ正気っ子

～語り合い・見せ合い・学び合い～



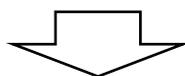
東金市立正気こども園

『生きる力』を備えた幼児の育成

サブテーマ 「伸び伸びと遊ぶ正気っ子 ～語り合い・見せ合い・学び合い～」

《保育者の願い》

- ・3歳児 …生活や遊びを通して、保育者や友達と関わる楽しさを味わって欲しい。
- ・4歳児 …友達との関り合いを通して、相手にも思いがあることに気付いて欲しい。
- ・5歳児 …自分で考えて行動したり、友達とイメージを共有して遊びを進めたりする楽しさを味わって欲しい。
- ・園全体 …子どもも保育者も、互いの思いを認め合いながら、より良い保育を行っていきたい。



伸び伸びと遊ぶ 正気っ子 ～語り合い・見せ合い・学び合い～

《仮説》

- 子ども一人一人の思いや姿を受け止め、丁寧にかかわることで、心が安定し、様々な活動や遊びに意欲的に取り組むことができるだろう。
- 子どもの興味や関心に合った環境について、保育者同士の対話を重ねていくことで、子どもが伸び伸びと遊べるようになるだろう。

《手立て》

○保育者の援助○

- ・ありのままの姿を受け止め、信頼関係を築いていき、一人一人に合わせた援助を心掛けていく。
- ・子どもの姿やそれぞれの保育観を語り合っていていき、子どもたちに必要な援助の仕方や環境構成を学び、実践していく。
- ・園全体で子どもの姿を捉え、職員間で共通理解を図っていき、子ども理解を深めていく。

○環境構成○

- ・様々な活動に「やってみよう」と意欲的に取り組むことができるように、魅力的な環境作りをしていく。
- ・子どもの興味関心に合わせた素材や道具等を用意し、時間を確保していく。
- ・広い園舎や園庭を生かし、異年齢交流が楽しめる場を設定していく。

《研究方法》

- ・日頃から、週案会議や職員会議等で、子どもの姿やクラスの悩み事等を語り合い、職員間で学び合いをしていく。
- ・期ごとにおいても、保育観を語り合ったり、保育の振り返りをしたりし、職員間で話す場を設け、共通理解を図っていく。

●第1回巡回指導を受けて（7月1日）

講師の感想（・）講師の助言（→）

<3歳児>

・好きな遊びが見つけれられるようないろいろなコーナー作りがされていて、子どもたちがやりたい遊びができています。集団生活が初めての子が多い3歳児にとっては、好きな遊びを見つけやすく、過ごしやすい環境設定であった。

・4歳児のキャンプごっこに、やってみたいという憧れを持って見ている子がいた。

→他のクラスに、行き来することがまだ難しいが、広々とした魅力的な廊下を上手く活用し、異年齢交流をしていくと良い。

<4歳児>

・テントの中で友達同士体をくっつけ合い、楽しさを共有している姿があり、更にキャンプごっこが盛り上がるように、子どもたちのアイデアやイメージを引き出していくことを大切にしている。

→廊下にテントを置き、異年齢児で遊べる環境があるのは良い。

・自己主張の強い女児が多く、トラブルになることが悩みである。

→4歳児として自分の意思を出せるのは育ちとして良い。

・リーダーとサブに分かれて保育をしているが、役割分担が見えない面がある。

→一人で見ようとせず、担任間で連携していくことが大切。

<5歳児>

・サイコロを使ってすごろくゲーム遊びをしていたが、遊びが発展しなかった。

→サイコロを使った遊びについて保育者自身が調べ、子どもたちが興味を持てるような環境作りをしてみたらどうか。子どもたちは何も無い遊びの環境からは、イメージやアイデアは生まれにくい。=0から1にするには難しいのではないか。

・3歳児からの積み重ねと発達の連続性が大切であり、子どもの育ちは繋がっているため、繋がりを意識した保育を大切にしていけるとよい。

・リーダーやサブの役割に固執せず、担任2人がメインと捉えられるような保育をしていくと良い。

・リーダーが変わると遊びが途切れてしまう。→コーナーを担当するなど、遊びが継続するようにすると良い。

<園全体>

・園内研究のサブテーマである「伸び伸びと遊ぶ」の「伸び伸び」とは、保育者によって捉え方に相違があるため、丁寧に保育者同士で擦り合わせていくことが大切であり、園としての方向性を示していき、職員間の共通理解に近づくのではないかと。



●第2回巡回指導（11月21日）

担任の思い・気づき（◇） 助言を受けての変化（○） 今後の課題・助言（☆）

<3歳児>

○1回目の巡回指導よりも職員間で話し合いを重ね、遊びを展開していて良かった。

☆箸への移行については、積み木や折り紙など指先を使った遊びを取り入れることが大切であり、3歳児で箸が使えなくても全く問題ない。

<4歳児>

☆積み木や折り紙など、手先を使う遊びをたくさん経験し、箸への移行に繋げていくと良い。

→様々な文化の人と身近になる中で、今まで常識だったことが正しい訳ではなく、また正しさを教えることだけが良い保育と言えないのではないかと。

○2か月間、お祭りごっこが続いて、保育者は長いのではないかと一方、子どもたちにとっては、『お祭りごっこに向かう準備期間』=『遊び』となって楽しさや面白さを感じていたため、決して長くはなかったのではないかと。

<5歳児>

◇進級より、自分の思いをだすことが得意ではなく、控えめな子が多いことには変わりはないが、「ごっこ遊びの準備を秘密で進めたい」などと、子どもたちなりに自分の思いを出せていた。子どもからの「～したい」だけが思いの表出ではないことを子どもの姿から感じた。

<園全体>

☆戸外遊びで遊ぶ場所（コーナー設定）が少なく、子どもたちが固定遊具に行く姿が目立っている。子ども自身がどんな遊びをして良いか見つからないのではないかと。遊びの拠点を作った方が良く、戸外では、5つのコーナーがあると良い。

☆砂場のままごとコーナーに保育者がいなかったため、遊びの展開ができずに終わってしまった。砂場の物的環境の見直し、雨どいなど、年齢に合った砂場遊びの環境を見直していく必要がある。

☆引き続き、発達の連続性を意識した保育をすると良い。

☆3クラスが全く違う保育を行っているが、子どもたちにとって今後発達にゆがみが生じないようにすることが大切であり、もう一度園としての保育の方向性を見直していくことを課題とすると良い。

☆自分の保育が支配になっていないか、保育と教育と支配（コントロール）は表裏一体であることを、保育者自身が日々の保育を振り返ることを大切にしてもらいたい。

●各年齢での研究の成果と今後の課題

	成果	今後の課題
3 歳 児	<ul style="list-style-type: none"> • 保育者が普段から子ども一人一人の気持ちに寄り添い、丁寧に関わることを意識したことで、子どもが安心して過ごせるようになった。 • 「やってみたい」「面白そう」と思えるように、環境を整え、見守ったり、保育者も一緒に関わったりすることで、伸び伸びと過ごすことができた。 • 新しい職員でスタートした一年であったので、まずは担任間で話し合う機会を多くもつようにした。そうすることで共通理解ができ、保育を進めていくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> • クラス全体としては落ち着いてきたが、気持ちの不安から後半にトラブルが見られたので、子どもにも保護者にもより丁寧な関わりをしていきたい。 • 「発達の連続性」を大切にしていくと良いと巡回指導で助言を受けたので、今後は、自分のクラスだけではなく園全体での共通理解を話し合っていきたい。 • 他のクラスの職員と話し合う機会が少なく、共通理解ができていないことがあり、途中から職員全員で話し合う機会をもち、今後も継続していきたい。
4 歳 児	<ul style="list-style-type: none"> • 担任間で話し合い、子ども一人一人の姿を丁寧に捉え、興味関心に合わせて環境を作ったことで、子どもたちの“やりたい”という思いが形となり、伸び伸びと遊ぶことができた。 • 自己主張の強い女児が多かったが、いろいろな遊びや生活、保育者を交えた話し合いの場を繰り返しもつ中で、自分の気持ちをコントロールするようになってきた。また、一緒に遊ぶ中で、少しずつ友達にも思いがあることに気づき、一緒に遊ぶ楽しさを感じることもできた。 • こども園立ち上げのため、週案会議、職員会議の他に、週に一度話し合う機会を作ったことで、各学年の遊びや子どもの姿について共通理解を図って保育をするようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> • 職員間で話し合いをするように意識してきたが、上手く連携が取れず、横のつながりが薄かったため、異年齢交流を盛んに行うことが少なかった。 • 自分の思いばかりを通そうとする子の姿が多いため、友達との関わり合いの中で、思いの伝え方、友達にも思いがあることを引き続き知らせていきたい。 • 保育の進め方や環境設定など、細かい点まで話し合わない共通理解を図れないことがあったので、更に保育の擦り合わせや共通理解を図り、全体で周知し、保育を進められるようにしていきたい。
5 歳 児	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の思いを表現することが苦手な子どもたちの表現を受け止めたり、拾い上げたりし、共有していくことで少しずつ自己表出ができるようになった。 • 行事や遊びを通して、友達や保育者にほめられたり、受け入れられたりする経験をしたことで自信へとつながり、伸び伸びと遊ぶ姿が見られるようになった。 • 職員間の考えや経験の違い、二人担任であることを常に意識することで、以前よりも意図的に話し合う機会をもつことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもたちの特性や今までの経験、興味を探り、保育者がどこまで準備したり、見守ったりするのかを判断し、援助していきたい。 • 今後も、今まで行ってきたことを当たり前と捉えず、気付いたことや考えを職員間で話し合い、思いを擦り合わせていくようにしたい。 • クラスの実態や保育内容について、短時間でも語り合う時間をもち、異年齢交流や職員間の共通理解につなげていきたい。

【1】 保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの最善の利益の考慮 ●組織としての基盤の整備 ●社会的責任の遂行 ●健康及び安全管理 ●職員の資質向上 	<p>子どもたちの現状を踏まえ、一人一人の個性を尊重し、伸び伸びと遊び、園生活を送れることを願い、保育に取り組んできた。幼稚園からこども園への転換の年となり、保育教諭間の思いの相違や課題が見える中で、正気こども園の良さを生かす保育を探ってきた。園内研究を進める中で、少しずつではあるが、思いの擦り合わせができてきていると感じている。今後も子どもたちの健やかな成長のため、継続して研究を進め、職員の資質向上に繋げていく。</p>
---	---

【2】 計画に基づく評価

<ul style="list-style-type: none"> ●全体的な計画 ●指導計画 ●週日案 ●個別支援計画 	<p>市内共通カリキュラムを基に、全体的な計画、週指導計画、個別指導計画を作成し、実践、振り返りをした。職員会議、週指導計画会議などの話し合いの場で、クラスの様子や気になる子どもの姿を伝え合い、共通理解することで、全職員で全園児を見る姿勢で保育にあたることができた。</p>
---	---

【3】 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

<ul style="list-style-type: none"> ●入園する子どもの家庭との連携と子育て支援 ●地域の保護者に対する子育て支援 ●地域における連携交流 	<p>保護者が安心してこども園に預けることができるよう、送迎時に丁寧にコミュニケーションを図り、信頼関係を築いてきた。また、園だよりや通信・クラスボードを通して、園での子どもの様子を発信し、子どもたちの成長を共有することができた。</p> <p>子育て支援事業の一環として、週一回程度の園庭開放を行った。未就園児を持つ保護者の子育て相談や交流の場として定期的な利用者が増え、子育て支援のためのセンター的な役割を果たしている。</p>
--	--

●研究のまとめ

今年度より幼稚園から認定こども園に転換し、幼稚園、保育所の職員と一緒に保育することになり、正気こども園の開放感溢れる園舎と広々とした園庭をいかして、子どもたちが「伸び伸びと遊んでほしい」という大きな願いのもと、「子ども一人一人の様々な活動や遊びに意欲的に取り組む姿を大切にしたい」また、「職員間との話し合いの機会を多く持ち、共通理解を図っていくことが大切である」という思いから～語り合い・見せ合い・学び合い～をサブテーマにして研究を進めてきた。

年度当初から、クラス運営の仕方、保育の進め方の相違に保育者一人一人が戸惑いを感じ、手探りの状態の中で保育を行ってきた。その中で、担任が抱える悩みを伝え合い、共通理解を図れるよう、悩みごと相談会の時間を設けた。徐々に保育者間で相談しながら保育を進められるようになってきたが、保育観の違いから、互いの保育において、当たり前なのが、当たり前ではないことや捉え方が異なる点など思うように保育ができず、すれ違いが表面化した。その後も話し合う機会を継続し、クラス担任と会計年度職員も含め、話し合うように関係を広げ、情報共有や共通理解を図る基盤作りにつなげていった。また、いろいろな遊びを通して、年下の友達をクラスに招待して遊んだり、コーナーを廊下に設定し関わりをもったりすることで、少しずつ異年齢交流ができるようになり、自然と他のクラスに遊びに行く姿が増え、保育者同士の関係性にも、子どもの姿を通して気軽に相談したり、話をしたりするようになってきた。

今回の研究を振り返り、テーマである「伸び伸びと遊ぶ正気っ子」とは「どんな子どもの姿なのか」をまず園内で深く話し合い、分かりやすく具体的なイメージをもち、保育していくことが重要であったことを改めて学び、子どもたちにとって魅力的な環境を作っていくことや子どもと共に保育者自身が“楽しい”と感じ、保育していくことの大切さを感じた。

最後に、今年度は、こども園立ち上げということもあり、各クラスの職員から遊びや保育内容を共有することが難しかった点が反省・感想に上げられた。また、他の保育所やこども園と違い、1号認定（14:00降園）・2号認定の園児が約半数ずつを占める中で、保育者間で話し合う十分な時間をもつことが困難であった点を踏まえて、次年度の課題とし、今後も保育や時間の確保の両面から一つ一つ丁寧に向き合っており、共通理解を図っていきたいと思う。